Actiphy ImageServer

セットアップガイド

第 1 版 2026 年 10 月

Actiphy

目次

1. はじめに 3
2. インストール 4
3. Web コンソールの設定 6
4. バケットの作成 9
5. バケットへのバックアップ 11
6. ワークフロー タスクの設定 15
   - 6-1. イメージ検証タスクの作成 15
   - 6-2. 結合タスクの作成 20
   - 6-3. BootCheck タスク（起動確認）の作成 24
   - 6-4. レプリケーション タスクの作成 29
7. 環境設定 34
   - 7-1. キャッシュ デバイスの設定 34
   - 7-2. E メール通知の設定 35
   - 7-3. ハイパーバイザーの登録 37
8. 運用管理 39
   - 8-1. イベントビューアー 39
   - 8-2. ワークフロータスクの管理 40
   - 8-3. レプリケーションビュー 43
   - 8-4. イメージファイルのエクスポート 45
   - 8-5. イメージファイルの展開 47
9. 参考情報 49

1. はじめに

1. Actiphy ImageServer は、ActiveImage Protector 専用のバックアップ ストレージです。サーバー上に「バケット」を作成し、ActiveImage Protector 専用のバックアップ保存先として利用できます。ActiveImage Protector とのバックアップ通信には QUIC を使用するため、Windows 共有を経由せずにバックアップデータを保存できます。また、保存先を共有フォルダーとして公開する必要がなく、独立したバックアップ保存先として構成できます。

   さらに、バックアップデータの保存に必要なストレージ容量を大幅に削減する「重複排除機能」と、レプリケーション、結合、検証、起動確認などのイメージ管理タスクを効率的に運用できる「ワークフロー機能」を搭載しています。これらの機能により、バックアップデータの管理性を高め、バックアップ運用の効率化を支援します。

   本ガイドでは、Actiphy ImageServer のインストールおよび基本的な設定方法について説明します。
   詳細な設定や操作方法については、以下のオンラインヘルプを参照してください。

   ●オンラインヘルプ
   https://webhelp.actiphy.com/AIS/v8/ja_JP/

   また、導入前に、導入先のコンピューターが Actiphy ImageServer のシステム要件を満たしていることを以下の Web ページでご確認ください。

   ●システム要件
   https://www.actiphy.com/ja-jp/product/actiphy-imageserver/#system-requirements

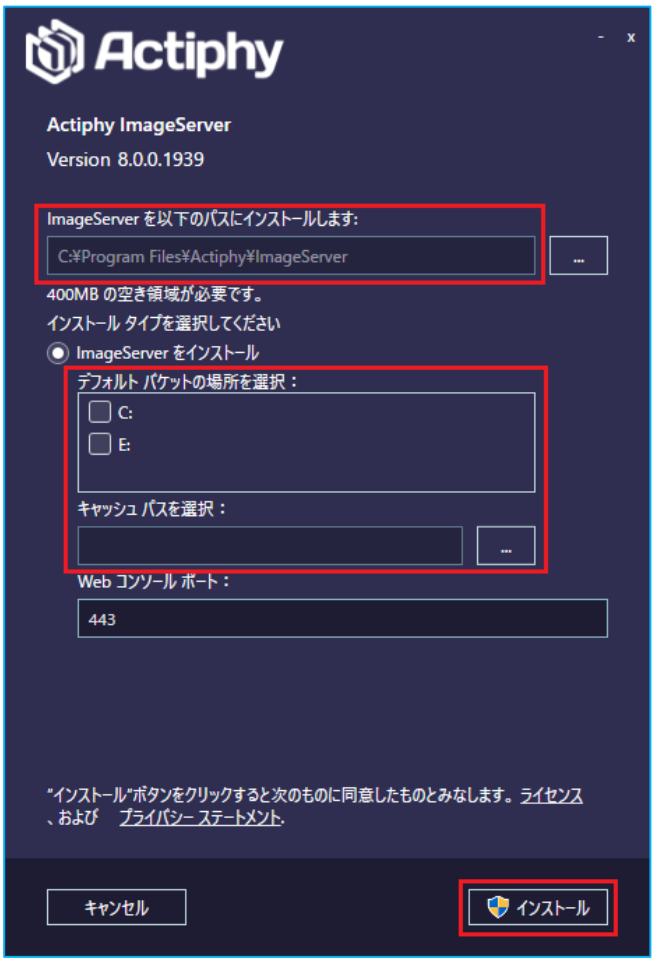
2. インストール

ここでは、対象コンピューターに Actiphy ImageServer をインストールする手順について説明します。

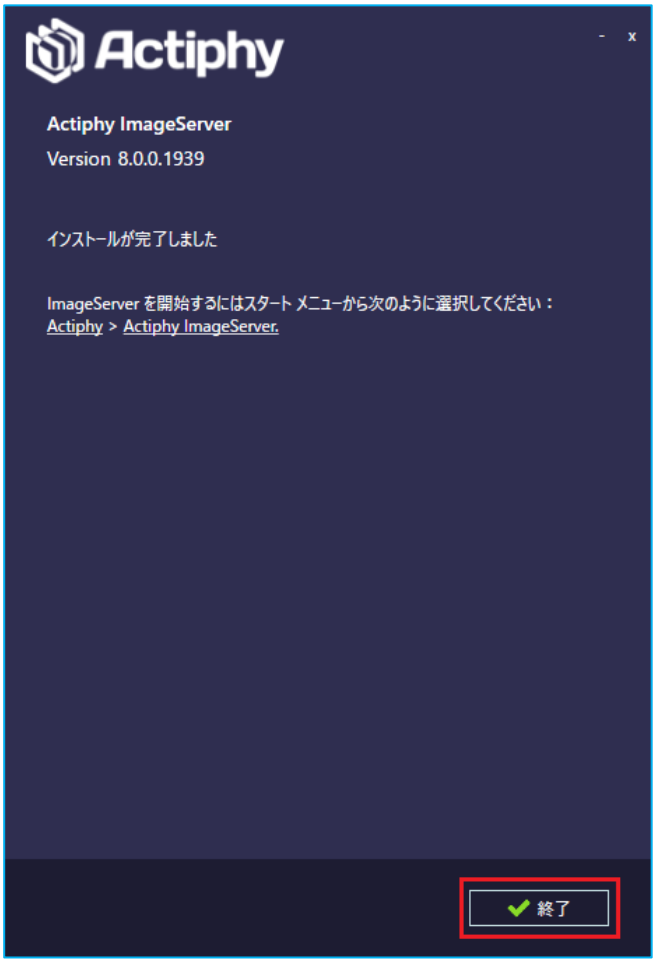
1. セットアップ プログラムの実行
   セットアップ プログラム（ImageReplicator_v800_bxxx.exe）を実行し、インストーラーを起動します。
   ※ セットアップ プログラムは、アクティファイの公式サイトからダウンロードできます。

   ●ダウンロードページ：
   https://www.actiphy.com/ja-jp/download/update/

2. インストールの開始
   インストーラーが起動したら、［インストール］をクリックしてインストールを開始します。
   インストール先は、任意のパスに変更できます。バケットの保存先やキャッシュデバイスは、インストール後に設定できます。



3. インストールの完了
   インストールが完了したら［終了］をクリックします。システムの再起動は不要です。

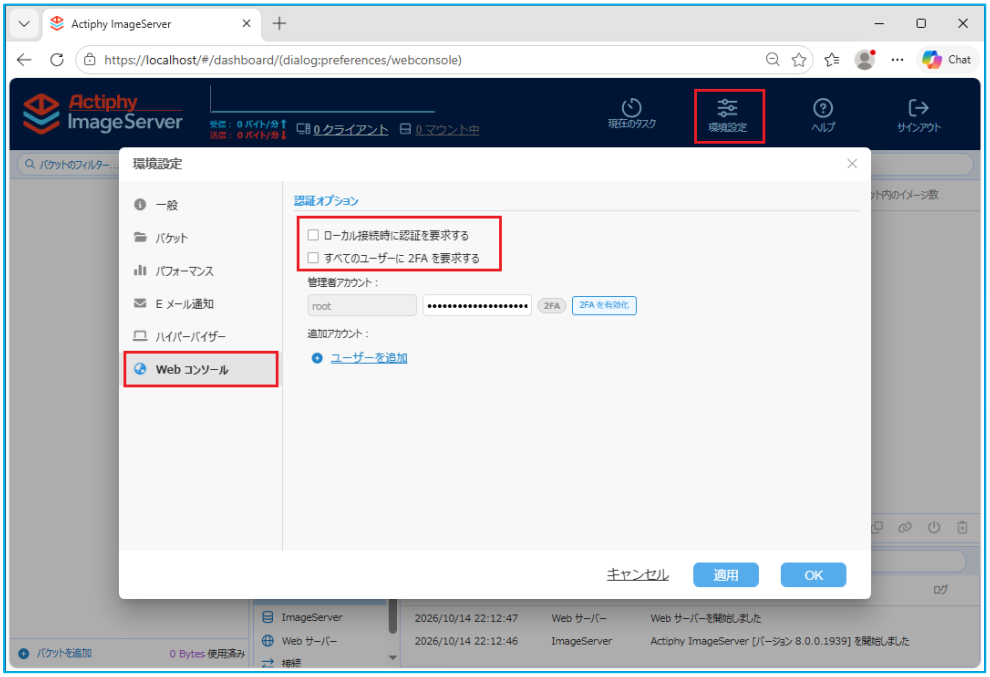


3. Web コンソールの設定

ここでは、Actiphy ImageServer の Web コンソールに関する認証方法や、ユーザーアカウントの設定について説明します。

1. Web コンソールの起動
   Windows のスタートメニューから[Actiphy]→[ImageServer]をクリックするか、デスクトップ上の Actiphy ImageServer アイコンをクリックして、Web コンソールを起動します。

2. 認証方法の設定
   ［環境設定］から［Web コンソール］を選択し、Web コンソールへのアクセス時に使用する認証方法を設定します。ローカル接続時のパスワード認証や二要素認証（2FA）を設定することで、Web コンソールのセキュリティを強化できます。

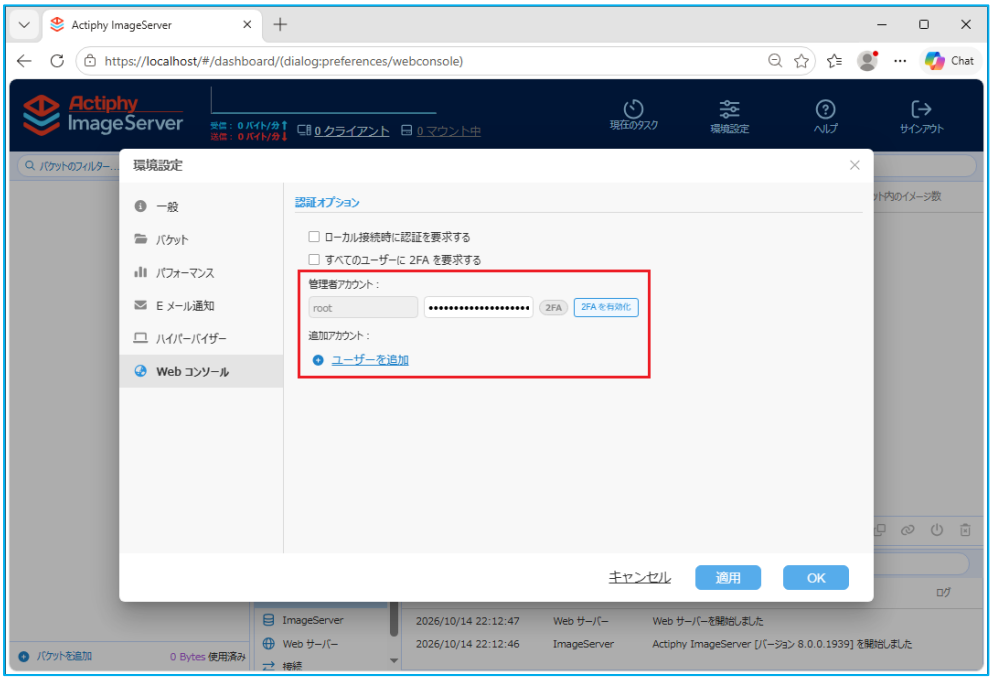


(1) ローカル接続時に認証を要求する
有効にすると、Actiphy ImageServer ホスト上から Web コンソールにアクセスする場合も、パスワード認証が求められます。

(2) すべてのユーザーに 2FA を要求する
有効にすると、ローカルおよびリモートから Web コンソールにアクセスする際に、Google Authenticator などの認証アプリを使用した二要素認証（2FA）が求められます。

3. 管理アカウントの設定

管理者アカウントのパスワード変更や二要素認証（2FA）の設定、およびユーザーアカウントの追加を行います。



(1) 管理者アカウントのパスワードの変更

既定の管理者アカウント［root］の初期パスワードは［root］です。セキュリティの観点から、任意のパスワードに変更します。

(2) 二要素認証（2FA）

［2FA を有効化］を有効にすると、Google Authenticator などの認証アプリを使用した二要素認証（2FA）を設定できます。



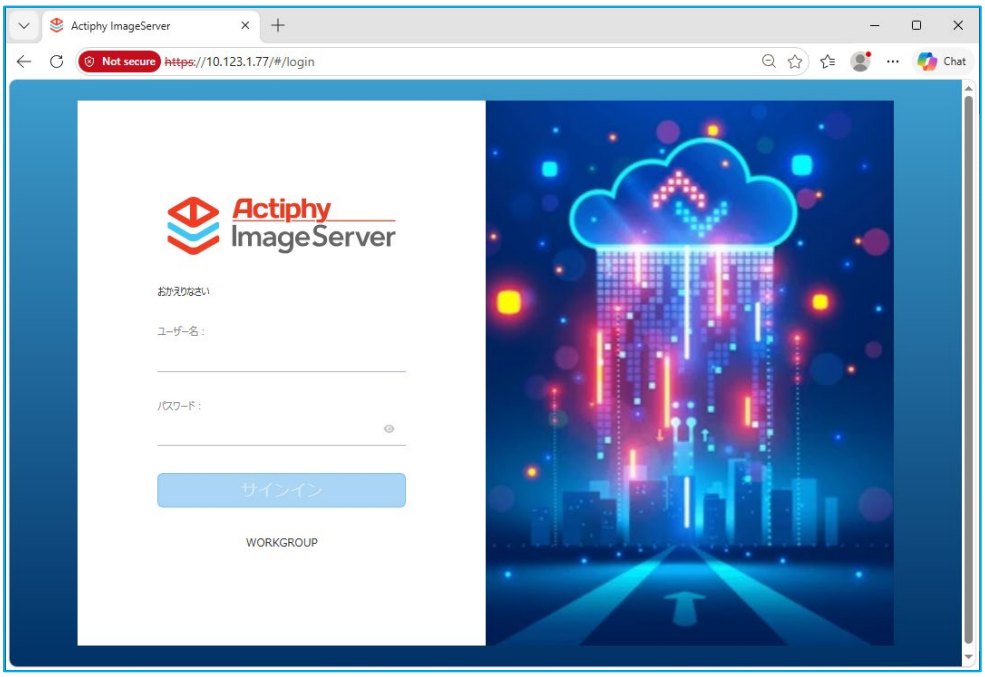
(3) ユーザーアカウントの追加

［ユーザーを追加］をクリックすると、Web コンソールへのアクセスを許可するユーザーを追加できます。

※追加したユーザーは、既存ユーザーの変更、削除、新規ユーザーの作成を行うことはできません。

4. リモート Web コンソール接続

リモート PC から Actiphy ImageServer の Web コンソールにアクセスし、管理・操作を行うことができます。Web ブラウザーを使用して、Actiphy ImageServer が稼働しているコンピューターの IP アドレスを指定してアクセスします（例：https://10.123.1.77）。接続には HTTPS プロトコルを使用します。ポート番号はデフォルトで「443」です。別のポート番号を使用する場合は、次の形式で指定します。（https://＜IP アドレス＞:＜ポート番号＞）

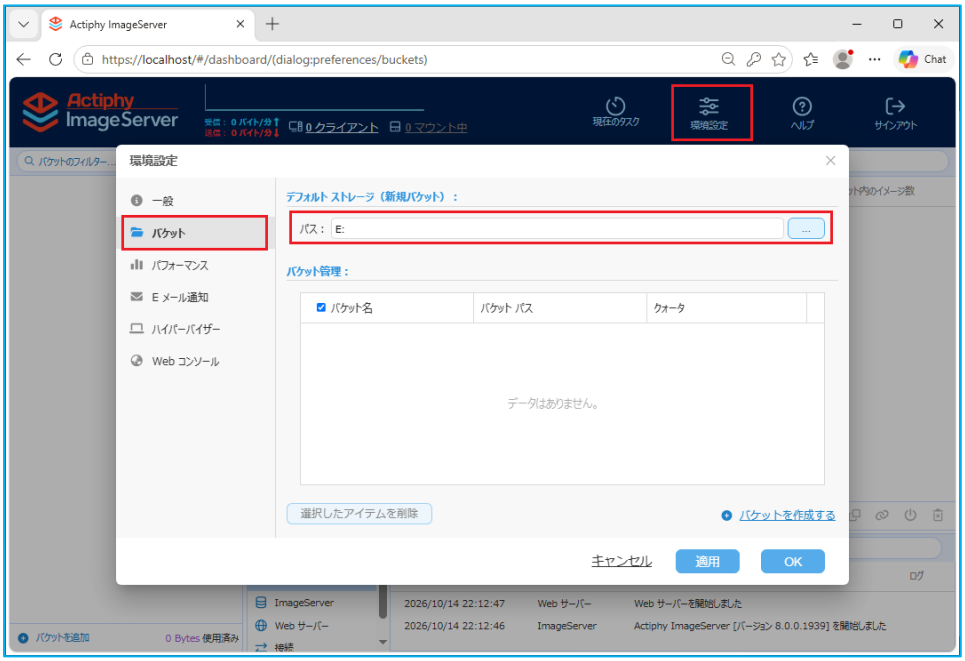


4. バケットの作成

ここでは、ActiveImage Protector 専用のバックアップ保存先となるバケットの作成手順について説明します。

1. デフォルト ストレージの指定

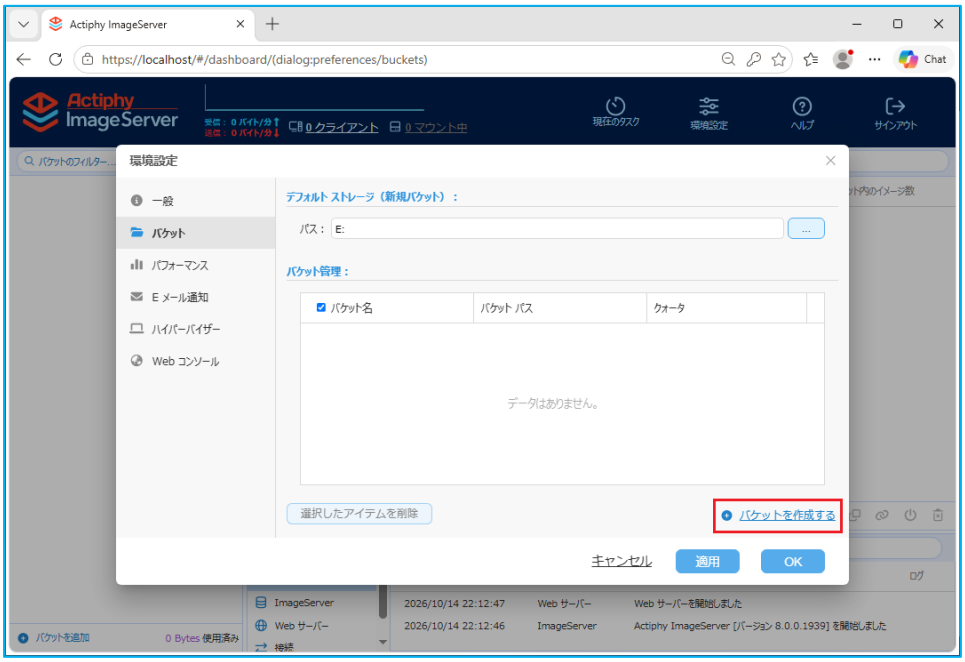
   ［環境設定］から［バケット］を選択し、［デフォルト ストレージ（標準バケット）：］の参照ボタン［…］をクリックして、バケットを作成するストレージを指定します。（例：E ドライブ）



2. バケットの作成

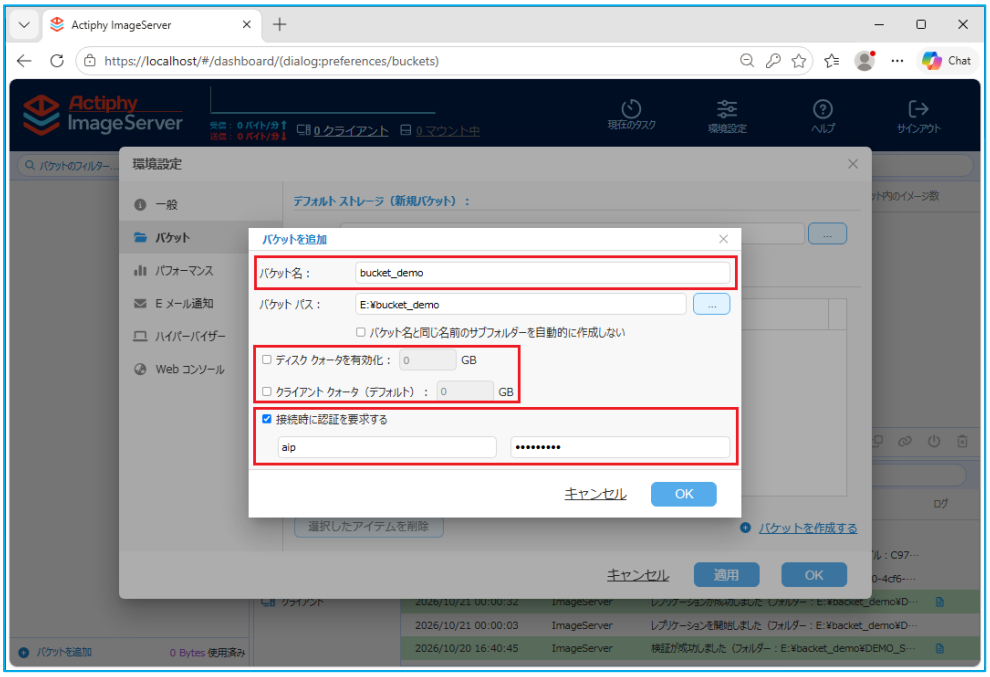
   コンソール右下の［バケットを作成する］をクリックし、バケットを新規作成します。

   ※１つのストレージにつき、作成するバケットは１つにすることを推奨します。また、バケットを作成するストレージは、Actiphy ImageServer 専用として運用することを推奨します。



3. バケットの設定

バケット名、ディスク クォータ、クライアント クォータ、および接続時の認証情報を設定します。



(1) バケット名の設定

任意のバケット名を設定します。設定したバケット名は、ActiveImage Protector からバックアップ保存先を指定する際に表示されます。

本手順では、［バケット名：］に「bucket_demo」を設定します。バケット名を指定せずに作成した場合は、「Bucket_ドライブ文字」の形式で自動的に設定されます。

※［バケット名と同じ名前のサブフォルダーを自動的に作成しない］を有効にすると、サブフォルダーは作成されず、指定したデフォルト ストレージのパスにバックアップが保存されます。

(2) ディスク クォータの設定

バケットが使用できるストレージ容量の上限を設定します。

(3) クライアント クォータ（デフォルト）の設定

各クライアントが使用できるストレージ容量のデフォルトの上限を設定します。

(4) 接続時の認証情報の設定

バケットへの接続時に認証を求める場合は、［接続時に認証を要求する］を有効にし、ActiveImage Protector から接続する際に使用する認証情報を設定します。

本手順では、［ユーザー名］に「aip」、［パスワード］に任意のパスワードを設定します。

5. バケットへのバックアップ

ここでは、ActiveImage Protector から、バックアップ保存先となるバケットにバックアップを保存する手順について説明します。

※ActiveImage Protector の基本的なバックアップ設定方法については、以下のセットアップガイドを参照してください。

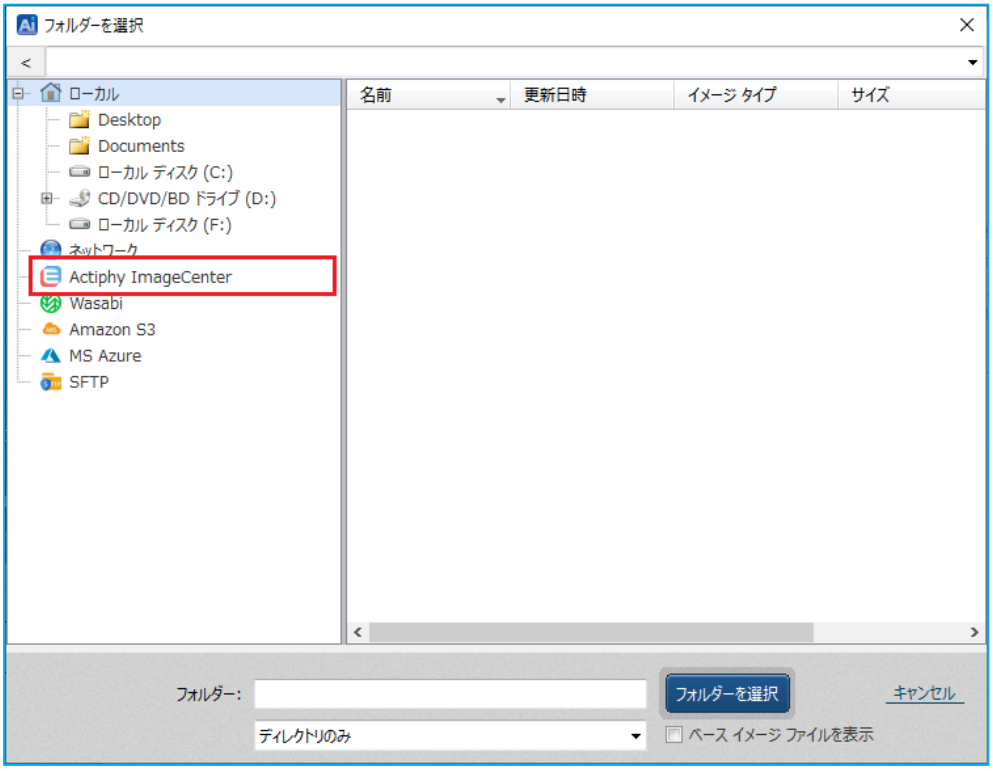
ActiveImage Protector 2022 Server セットアップガイド：

https://www.actiphy.com/ja-jp/setup_guide/actiphy_activeimage_protector_2022_server

1. バックアップ保存先の指定

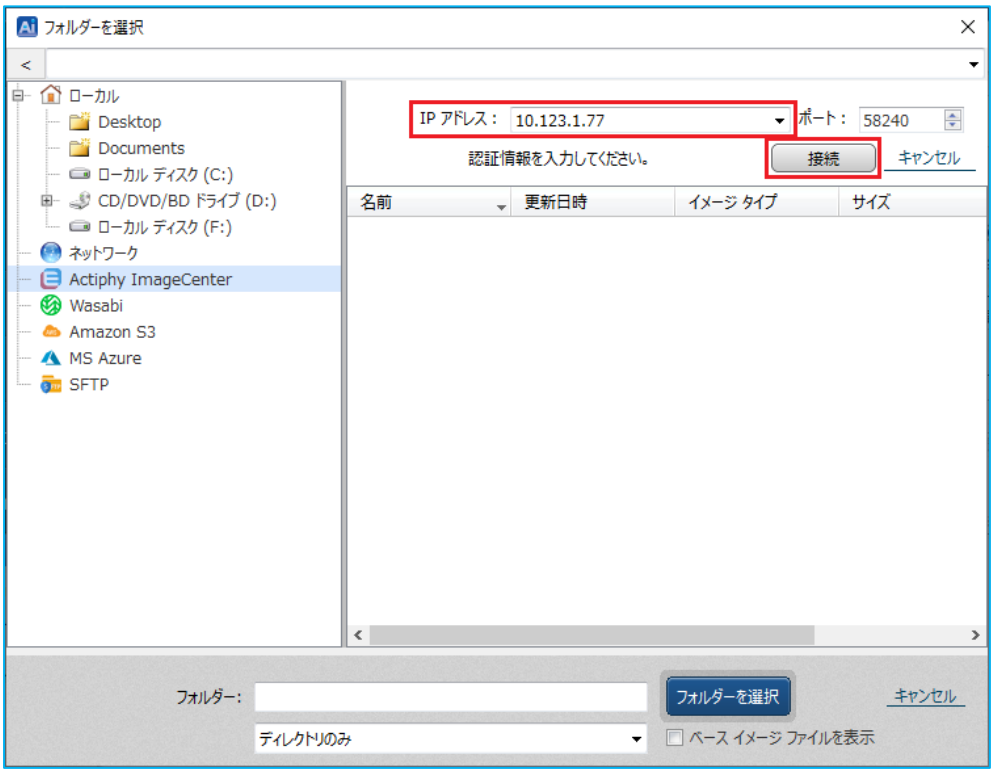
   ActiveImage Protector のバックアップ保存先の選択画面で、［Actiphy ImageCenter］を選択します。

   ※ActiveImage Protector 7.8.1 以前のバージョンから、バケットをバックアップ保存先に指定する場合も、［Actiphy ImageCenter］から選択します。



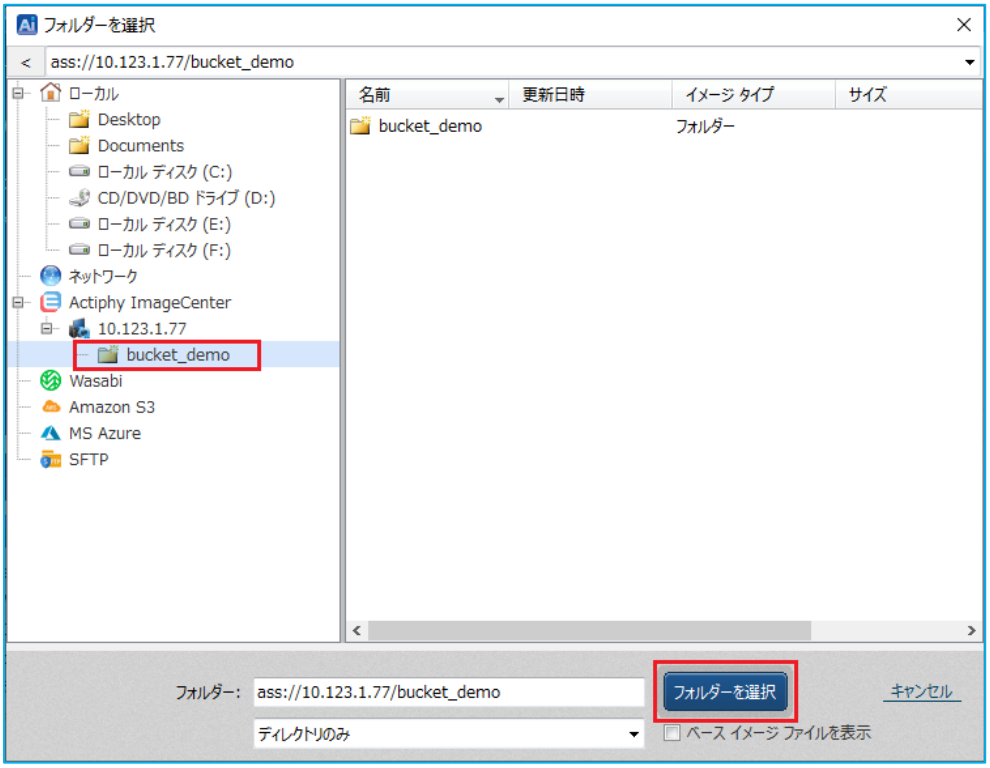
2. バケットへの接続

[IP アドレス：]に、Actiphy ImageServer がインストールされているサーバーの「ホスト名または IP アドレス」を入力し、［接続］をクリックします。

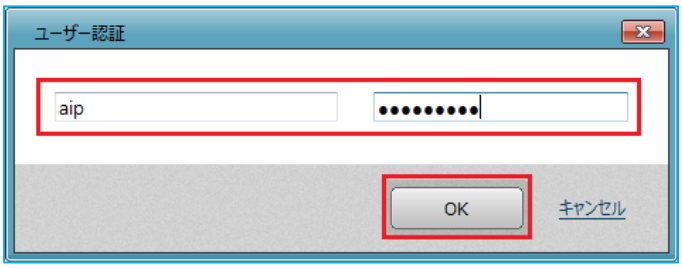


3. バケットの選択

バックアップ保存先として使用するバケットを選択し、［フォルダー選択］をクリックします。



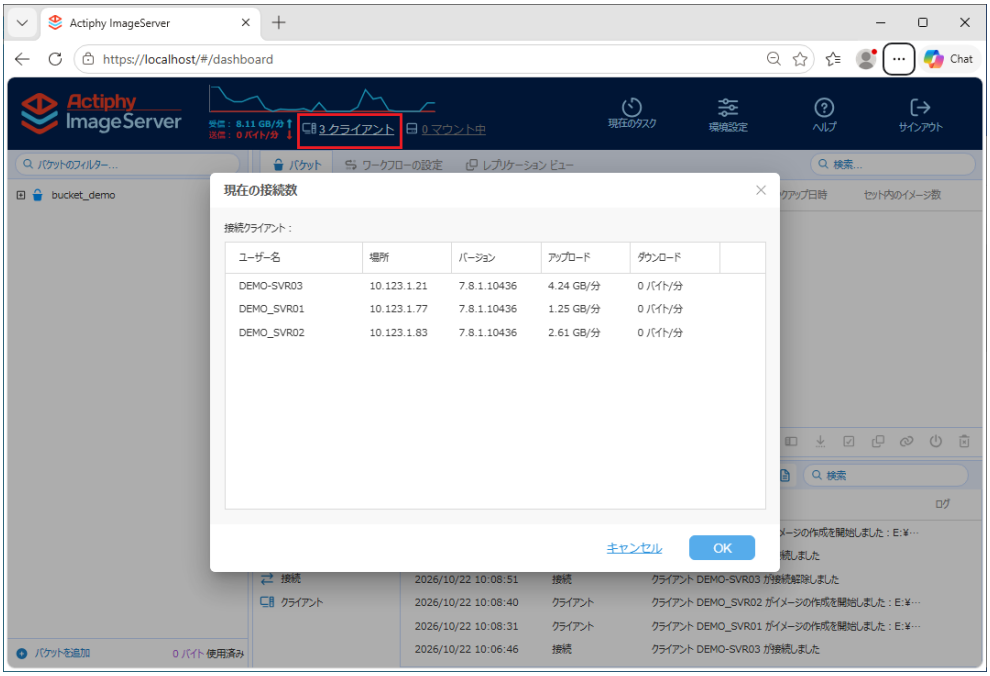
4. 認証情報の入力
   バケットへの接続時に認証情報を要求する設定にしている場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。



5. バックアップ状況の確認
   ダッシュボード上部の［受信：］、［送信：］から、現在のデータ受信量と送信量を確認できます。クリックすると、表示単位を「バイト/分」または「bps」に切り替えられます。また、［x クライアント］からは、現在の接続クライアント数を確認できます。



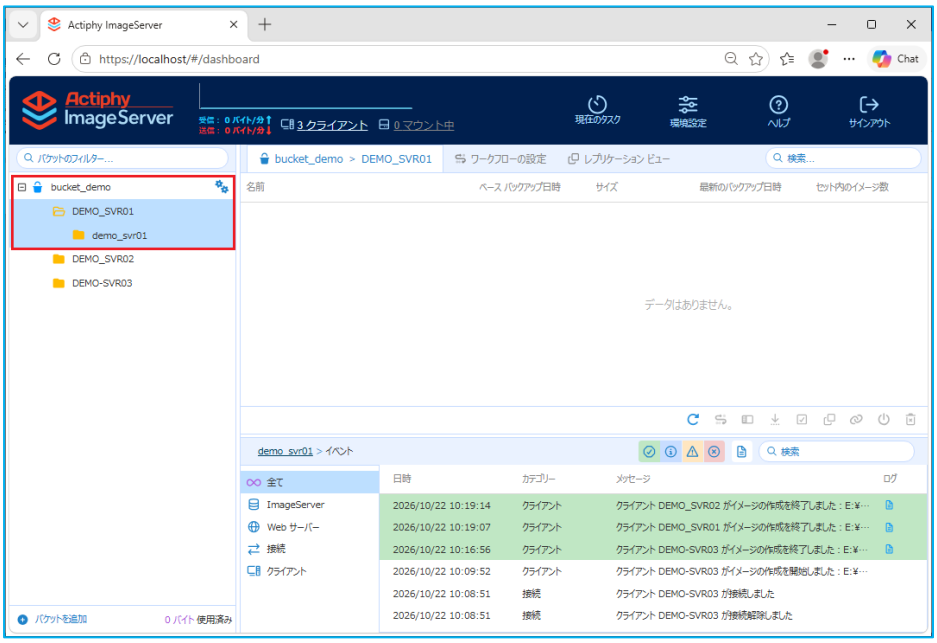
6. クライアントごとの情報表示
   ［x クライアント］をクリックすると、接続クライアントごとの情報を確認できます。



7. バックアップ保存先フォルダー

バックアップが完了すると、標準設定では、画面左の［バケットツリー］に表示されるバケットの下に、バックアップ元コンピューターのホスト名を使用したフォルダーが作成されます。その下には、バックアップタスクごとのサブフォルダーが作成され、イメージファイルが保存されます。

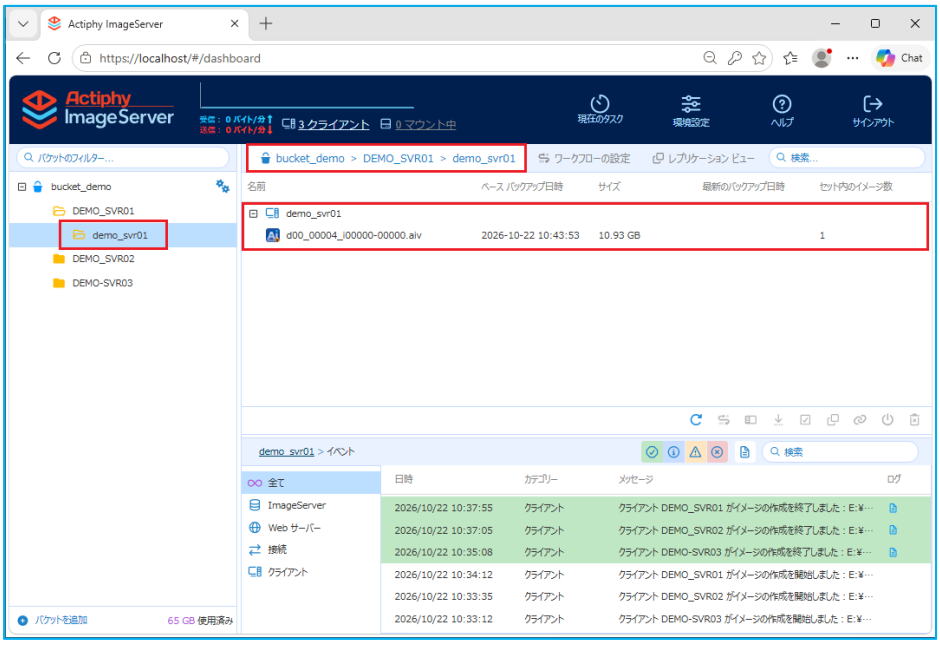
※ バケット内の既存のイメージファイルと比較し、フルバックアップのイメージファイルを対象に、ブロック単位で重複排除が行われます。



8. イメージファイルの確認

本手順では、対象のバックアップタスクのフォルダーを選択します。右ペインの［バケットビュー］タブをクリックすると、イメージセットが一覧表示されます。不要なイメージセットやフォルダーは、右クリックメニューから削除できます。

※ フルバックアップとそれに紐づく増分バックアップを、1 つのイメージセットとして管理しています。



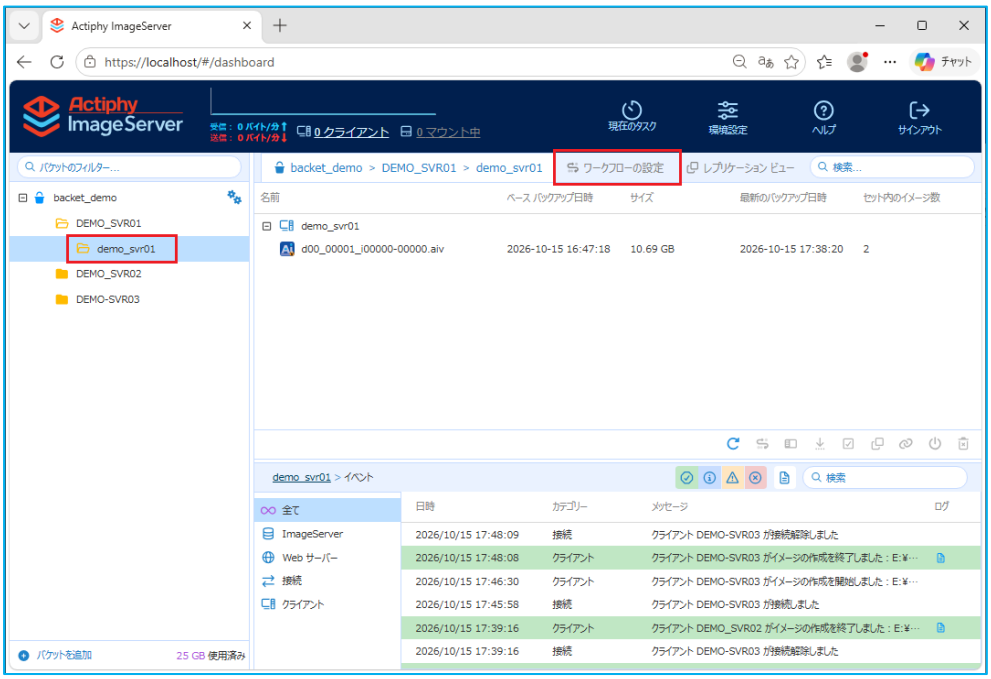
6. ワークフロー タスクの設定

「ワークフロー」機能では、検証、結合、起動確認、レプリケーションなどのイメージ管理タスクをステージとして登録し、実行順序や実行時間帯を設定して、定期的に自動実行できます。ステージはドラッグ＆ドロップで順番を変更でき、処理の流れを視覚的に管理できます。また、各タスクをオンデマンドで実行することもできます。

6-1. イメージ検証タスクの作成

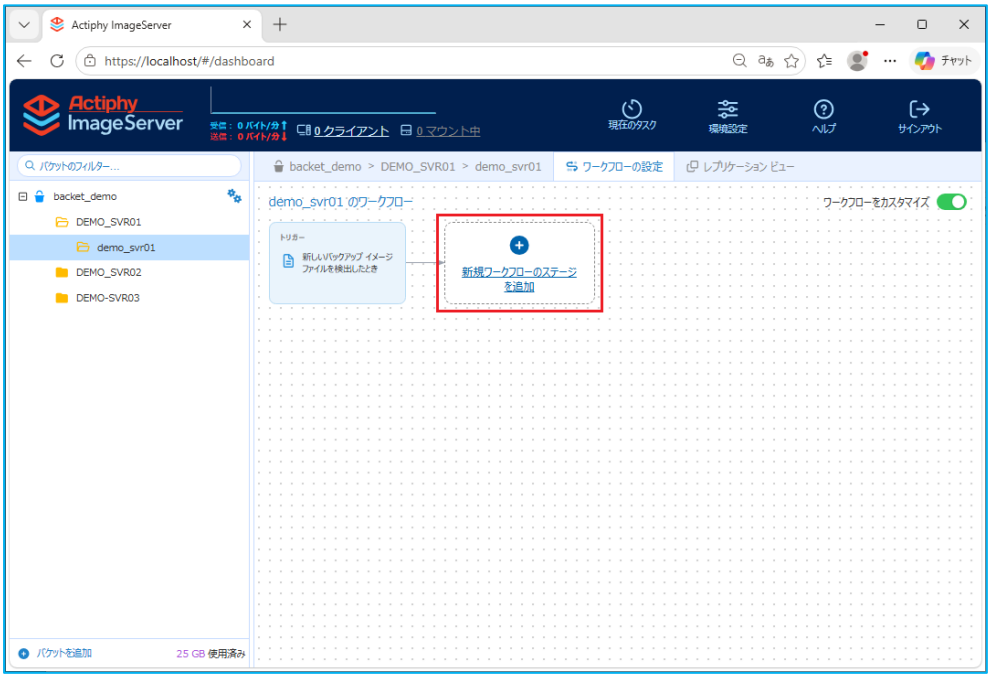
イメージ検証タスクでは、イメージファイルの整合性を検証し、データの破損などがないかを確認します。

1. 処理対象コンピューターのバックアップ保存先フォルダーの選択
   本手順では、［バケットツリー］から、処理対象コンピューターのフォルダー配下にある、バックアップタスクごとのサブフォルダーを選択し、［ワークフローの設定］タブをクリックします。選択したフォルダー内のイメージファイルが処理対象となります。



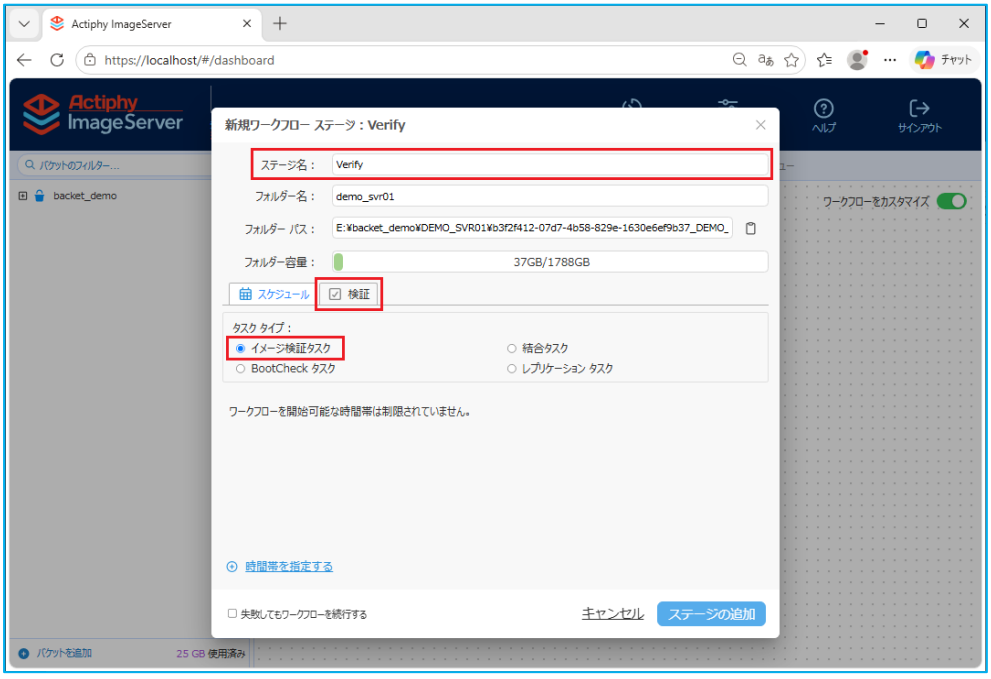
2. ステージの追加

［新規ワークフローのステージを追加］をクリックします。



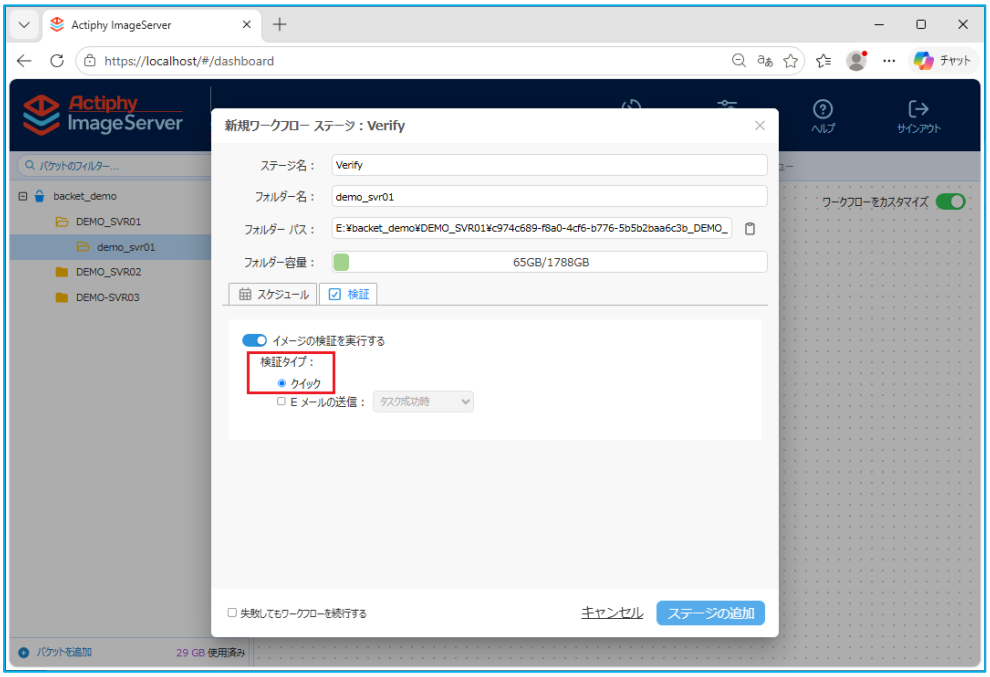
3. ステージ名の設定

［ステージ名：］に任意の名前を入力します。本手順では、［Verify］と入力します。［タスク タイプ：］から［イメージ検証タスク］にチェックを入れ、［検証］タブをクリックします。



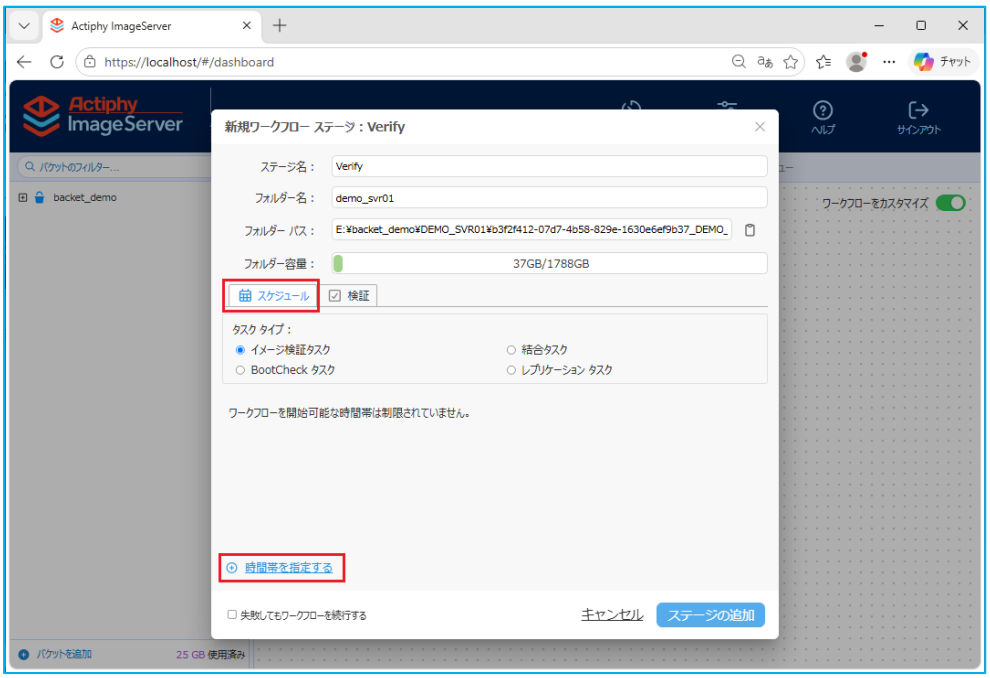
4. 検証タイプの選択

［検証タイプ：］から［クイック］を選択します。



5. スケジュールの設定

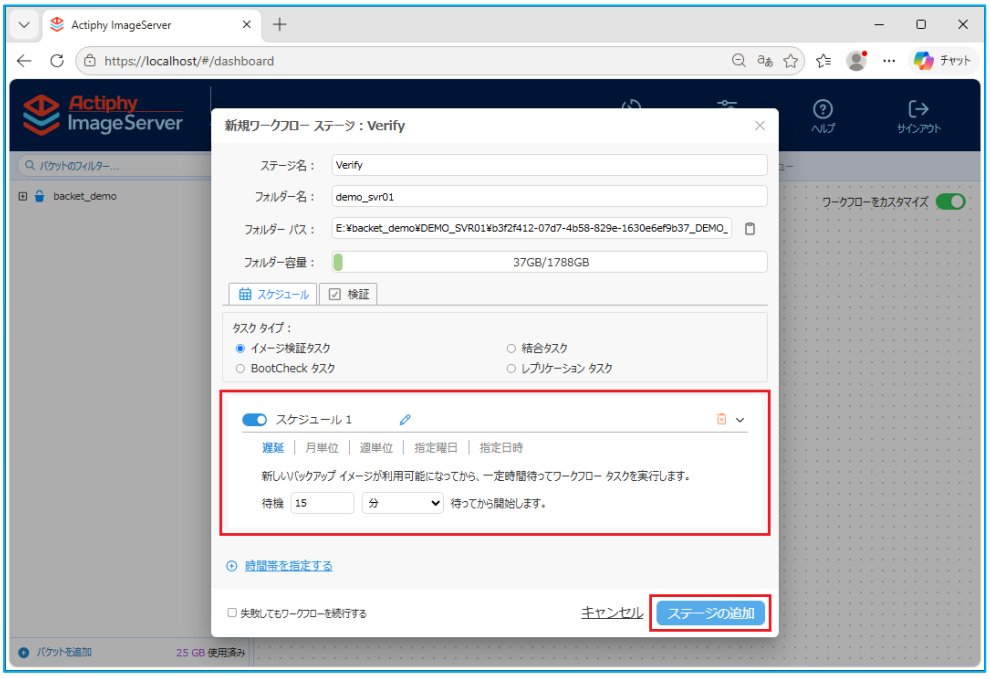
［スケジュール］タブを選択し、［時間帯を設定する］をクリックします。



6. 実行スケジュールの設定

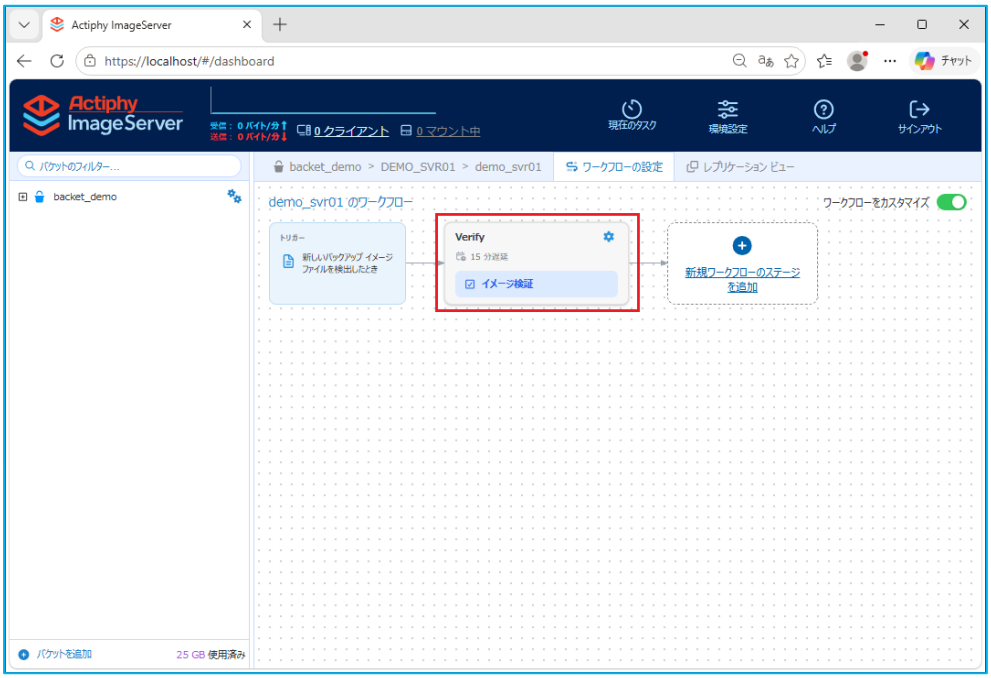
   スケジュールは、遅延、月単位、週単位、指定曜日、指定日時から設定できます。

   本手順では、［遅延］を選択し、イメージファイルの新規作成から 15 分後に検証を開始するように設定します。設定が完了したら、［ステージの追加］をクリックし、イメージ検証タスクをワークフローに追加します。



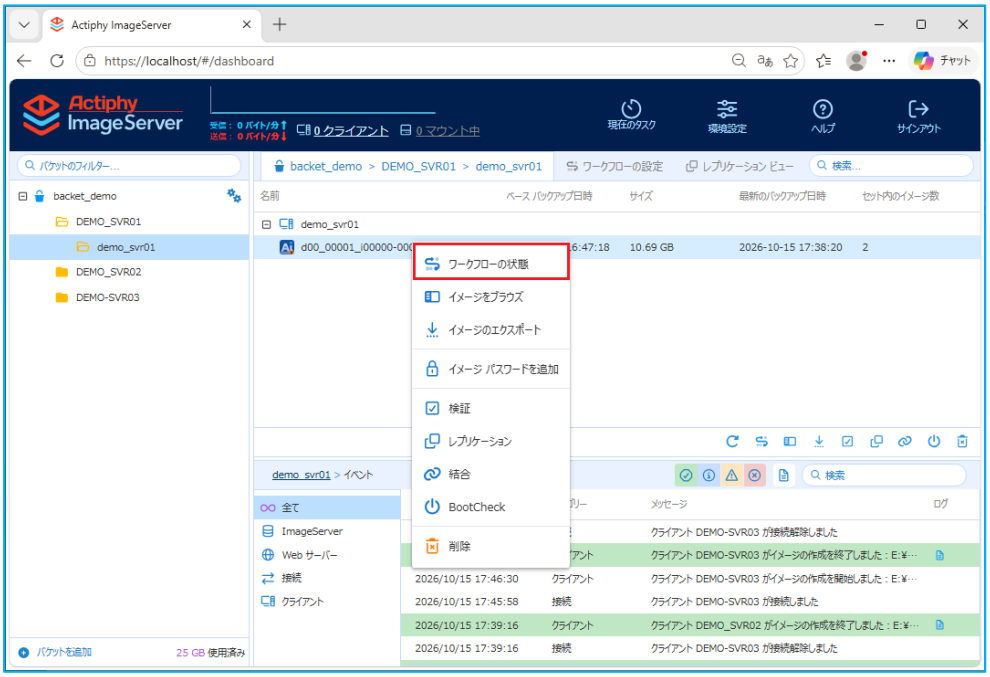
7. 設定の確認

   ワークフローにイメージ検証タスクが追加されていることを確認します。以降は、設定したスケジュールに従って、イメージ検証が自動的に実行されます。



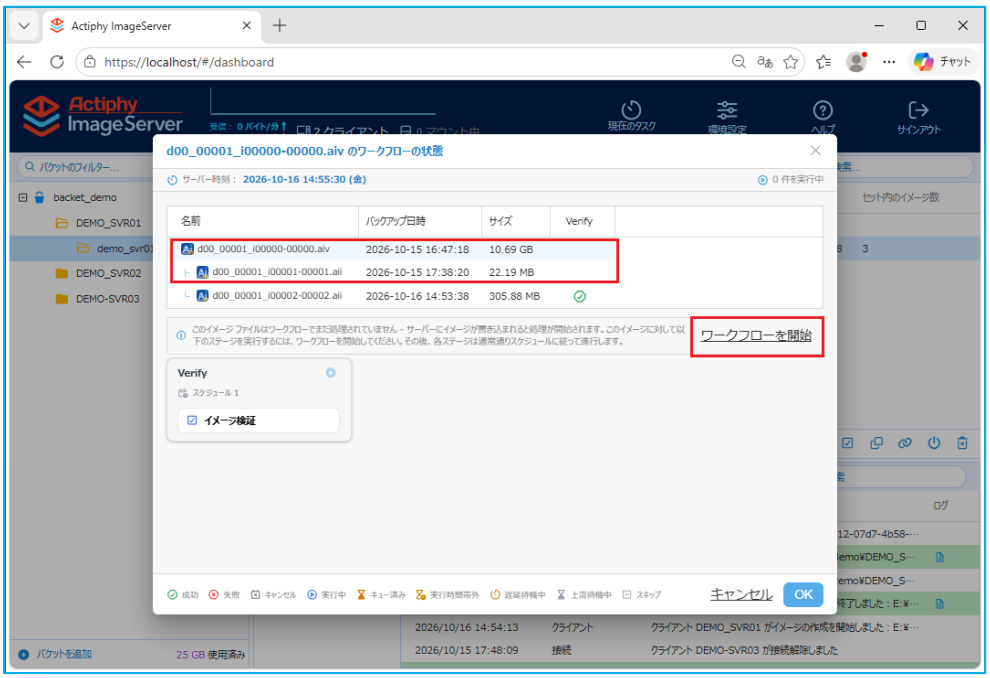
8. ワークフロー設定前に作成されたイメージファイルの処理

ワークフローを設定しても、設定前に作成された既存のイメージファイルに対して、イメージ検証タスクは自動的に実行されません。既存のイメージファイルに対してイメージ検証タスクを実行する場合は、［バケットビュー］タブから対象のイメージセットを右クリックして、［ワークフローの状態］を選択します。



9. ワークフローの開始

未処理のイメージファイルを選択し、［ワークフローを開始］をクリックすると、イメージ検証が実行されます。

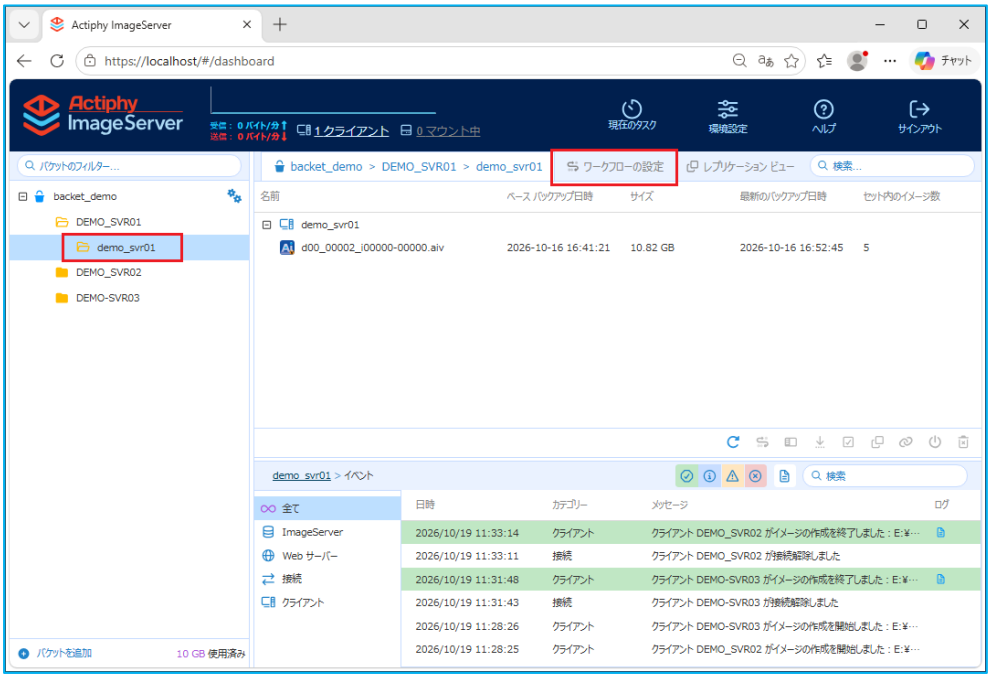


6-2. 結合タスクの作成

イメージ結合タスクでは、古い増分イメージファイルを結合することで、バックアップデータを整理し、管理しやすい状態に保てます。

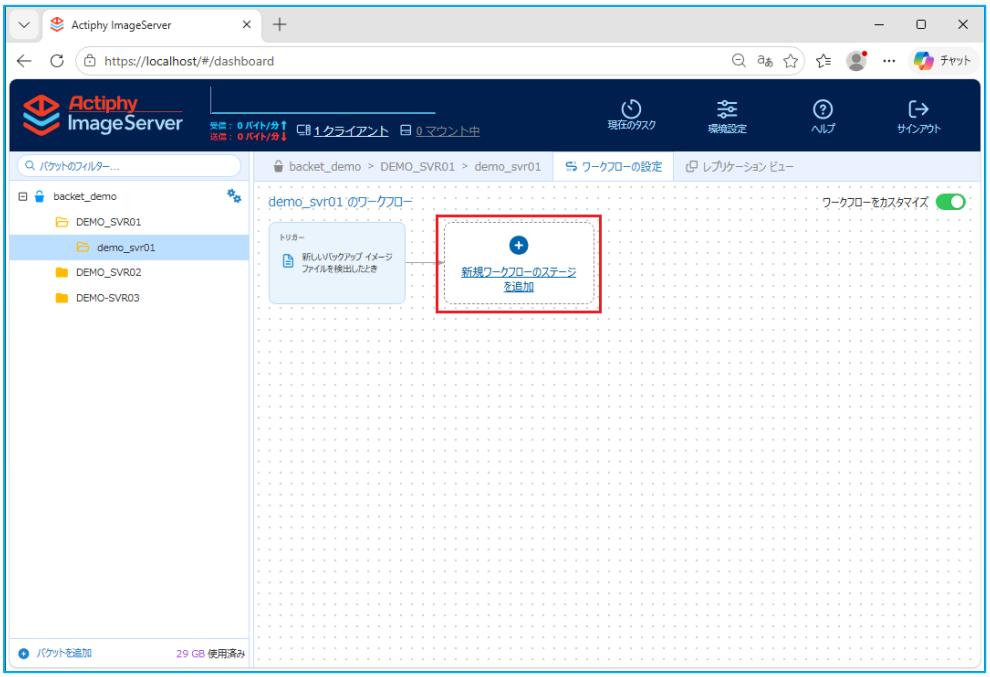
1. 処理対象コンピューターのバックアップ保存先フォルダーの選択

   本手順では、［バケットツリー］から、処理対象コンピューターのフォルダー配下にある、バックアップタスクごとのサブフォルダーを選択し、［ワークフローの設定］タブをクリックします。選択したフォルダー内のイメージファイルが処理対象となります。



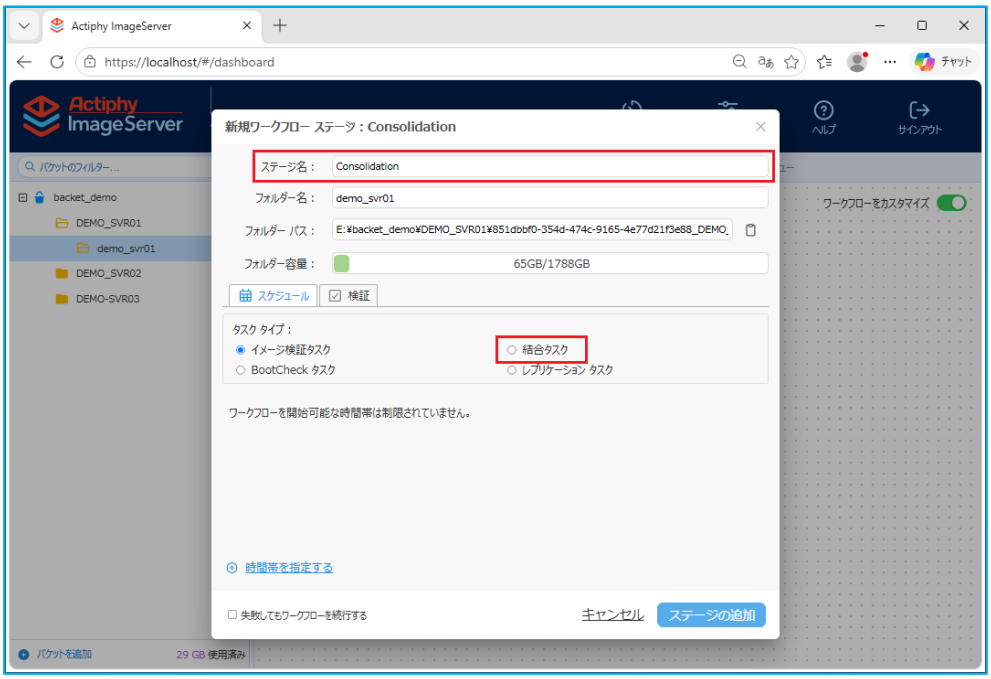
2. ステージの追加

   ［新規ワークフローのステージを追加］をクリックします。



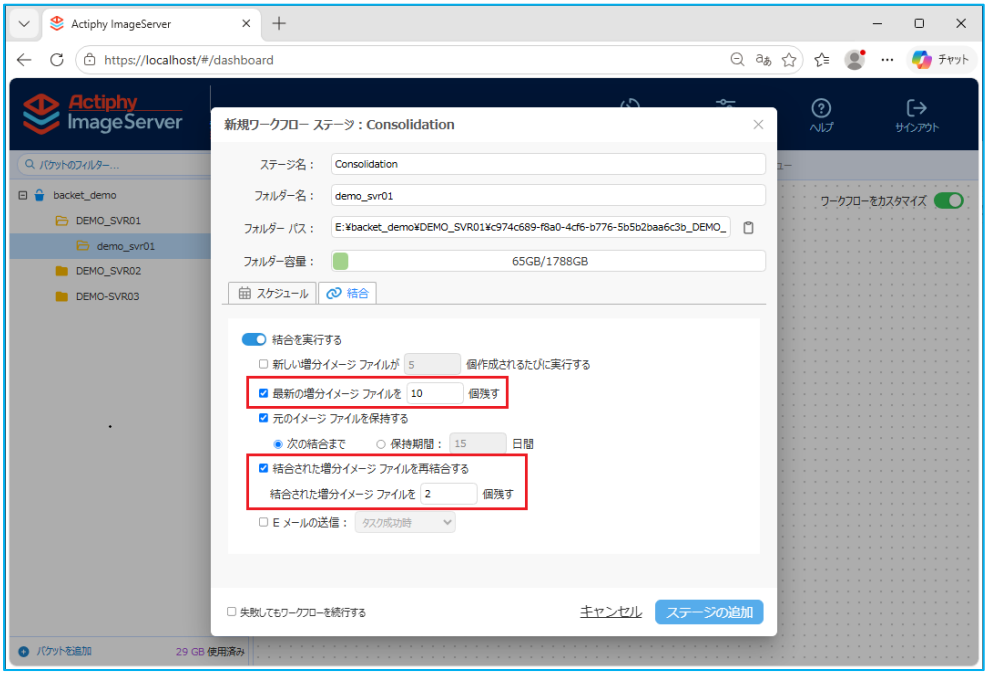
3. ステージ名の設定

［ステージ名：］に任意の名前を入力します。本手順では、［Consolidation］と入力します。［タスク タイプ：］から［結合タスク］にチェックを入れます。



4. 結合タスクの設定

本手順では、最新の増分イメージファイルを 10 個残し、結合した増分イメージを 2 個残す設定をします。



(1) 新しい増分イメージが xx 個作成されるたびに実行する

有効にすると、指定した数の増分バックアップのイメージファイルが作成されるまで処理は実行されません。

(2) 最新の増分イメージファイルを xx 個残す

結合対象にしない増分バックアップの数を指定できます。

(3) 元のイメージファイルを保持する

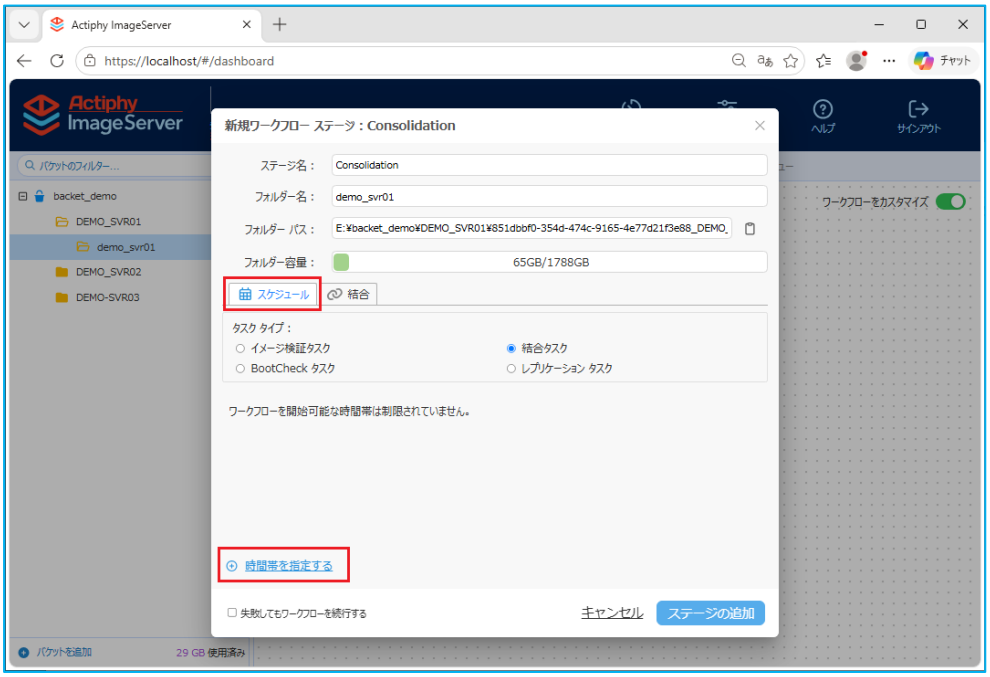
「指定した日数分」、または「次の処理実行時まで」結合する前の増分バックアップを保持できます。

(4) 結合された増分イメージファイルを再結合する

結合されたバックアップを再結合します。結合済みバックアップを複数保持する場合は［結合した増分イメージを xx 個残す］で 2 以上の数を指定してください。保持対象から外れる最も古いバックアップは、次に古いバックアップと再結合されます。

5. スケジュールの設定

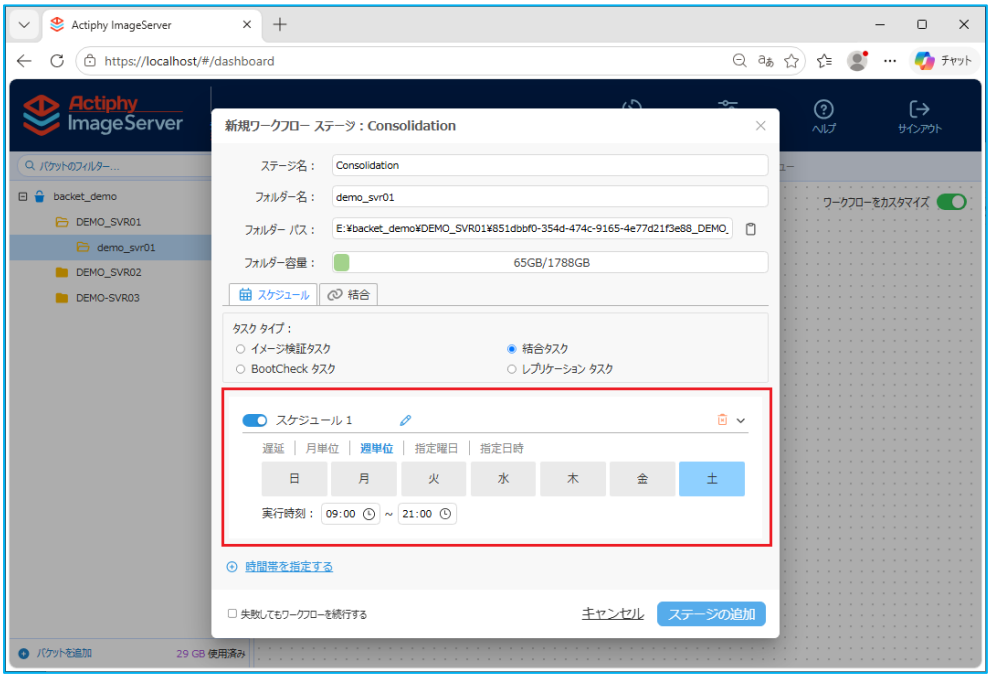
［スケジュール］タブを選択し、［時間帯を設定する］をクリックします。



6. 実行スケジュールの設定

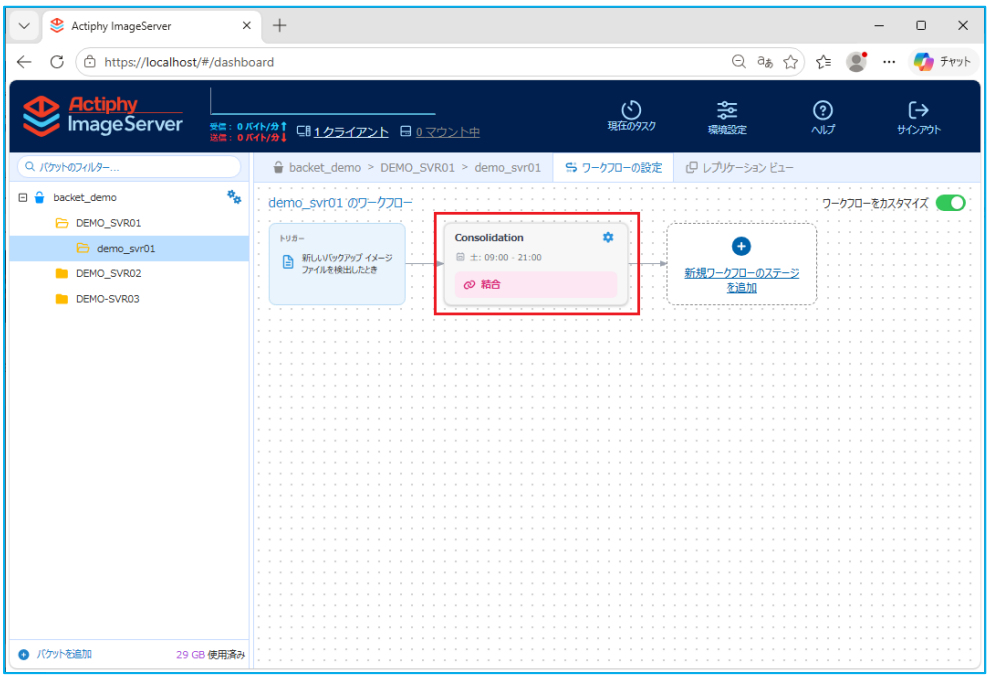
   実行スケジュールは、遅延、月単位、週単位、指定曜日、指定日時から選択できます。

   本手順では、［週単位］を選択し、土曜日の 9 時から 21 時までの間に結合処理を開始するように設定します。設定が完了したら［ステージの追加］をクリックし、イメージ結合タスクをワークフローに追加します。



7. 設定の確認

   ワークフローにイメージ結合タスクが追加されていることを確認します。以降は、設定したスケジュールに従って、イメージ結合タスクが自動的に実行されます。

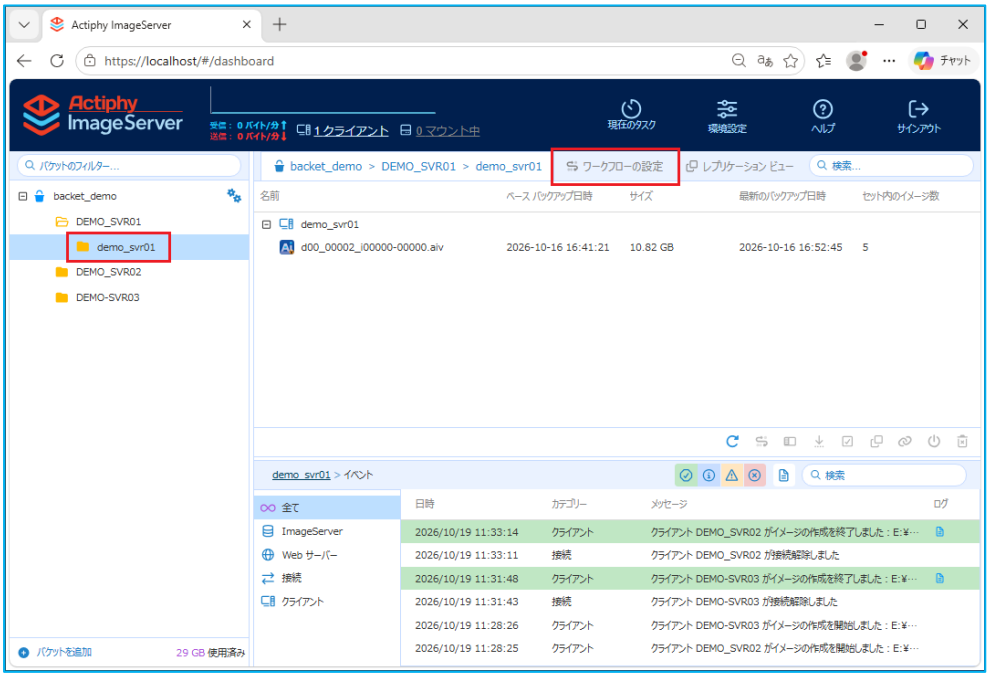


6-3. BootCheck タスク（起動確認）の作成

BootCheck タスク（起動確認）では、イメージファイルから仮想マシンを起動し、バックアップから復元したシステムが正常に起動することを確認します。

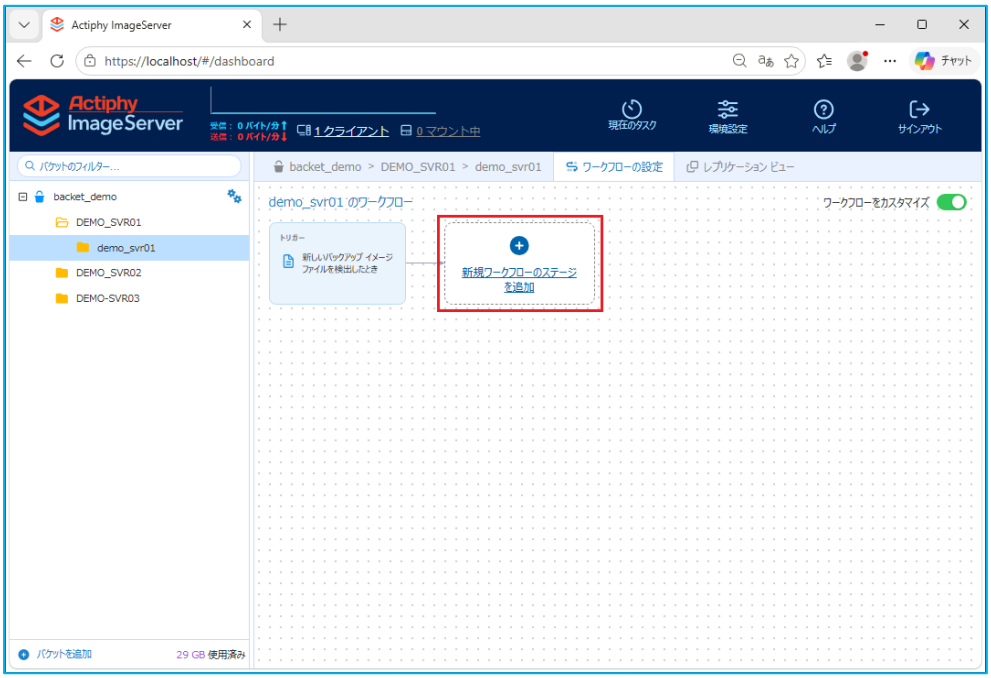
1. 処理対象コンピューターのバックアップ保存先フォルダーの選択

   本手順では、［バケットツリー］から、処理対象コンピューターのフォルダー配下にある、バックアップタスクごとのサブフォルダーを選択し、［ワークフローの設定］タブをクリックします。選択したフォルダー内のイメージファイルが処理対象となります。



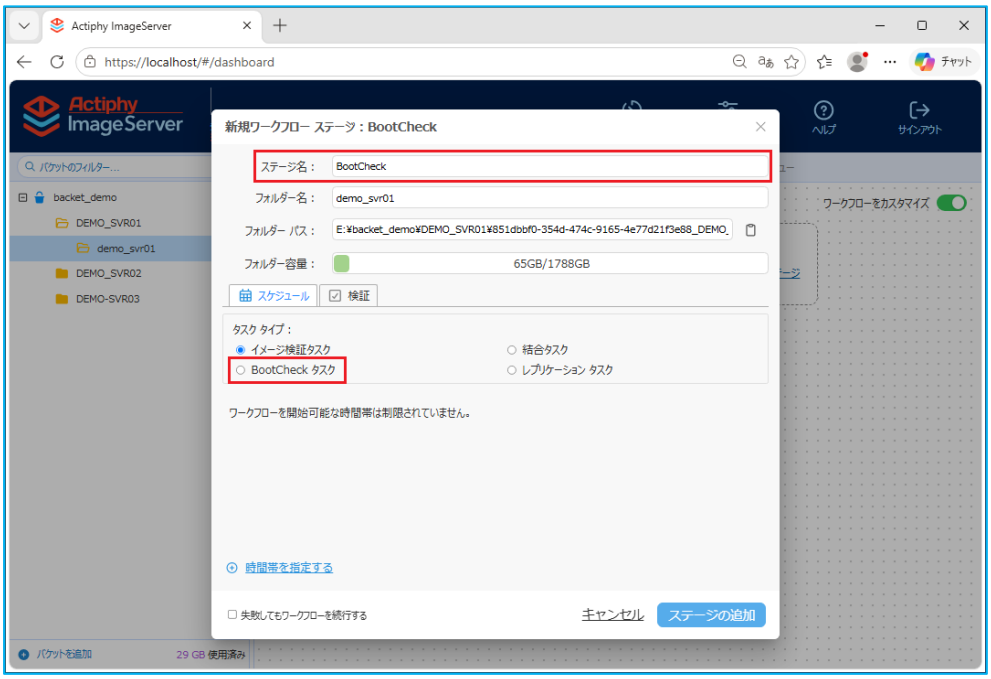
2. ステージの追加

   ［新規ワークフローのステージを追加］をクリックします。



3. ステージ名の設定

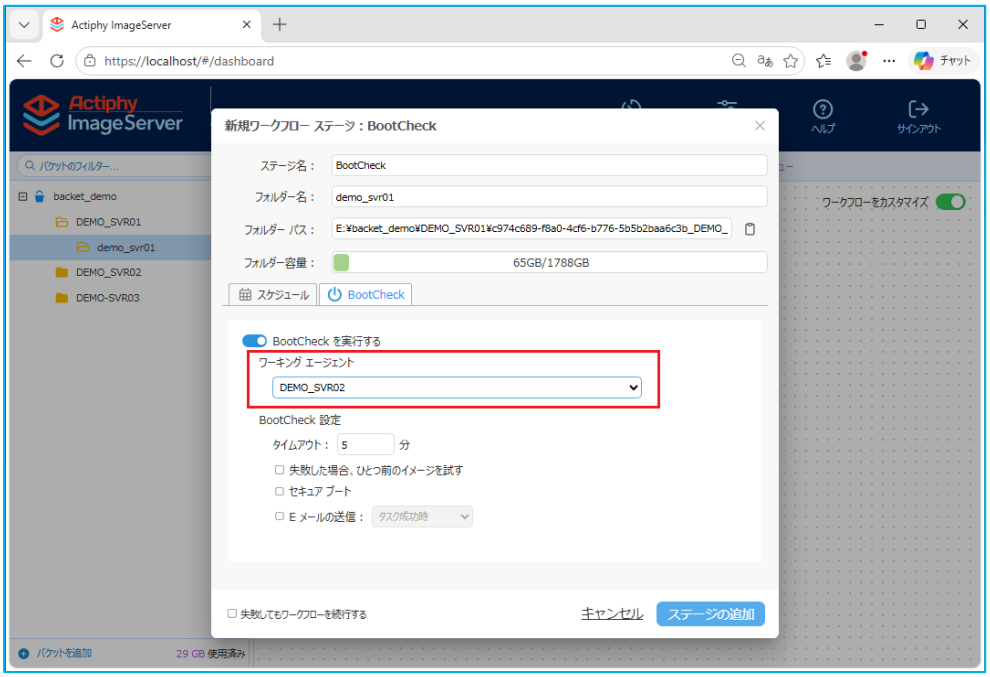
［ステージ名：］に任意の名前を入力します。本手順では、［BootCheck］と入力します。［タスク タイプ：］から［BootCheck タスク］にチェックを入れます。



4. 起動確認に使用する Hyper-V ホストの選択

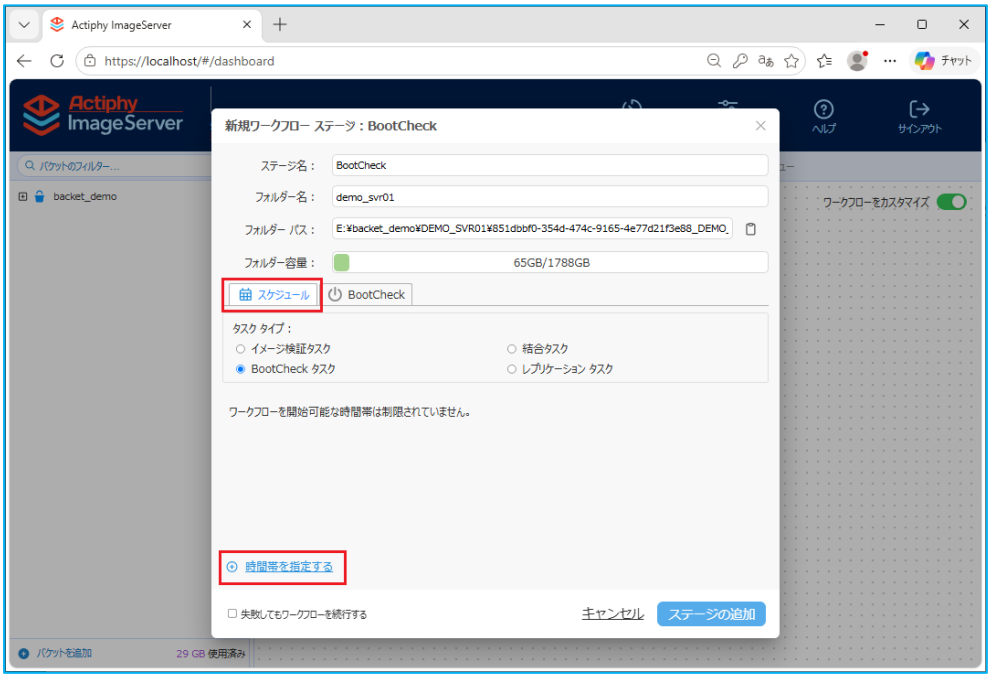
［ワーキング エージェント：］のテキストボックス右側にあるプルダウンメニューから、起動確認に使用する Hyper-V ホストを選択します。

※ 事前に、［環境設定］から［ハイパーバイザー］を設定する必要があります。設定方法については、「7-3. ハイパーバイザーの登録」の項を参照してください。



5. スケジュールの設定

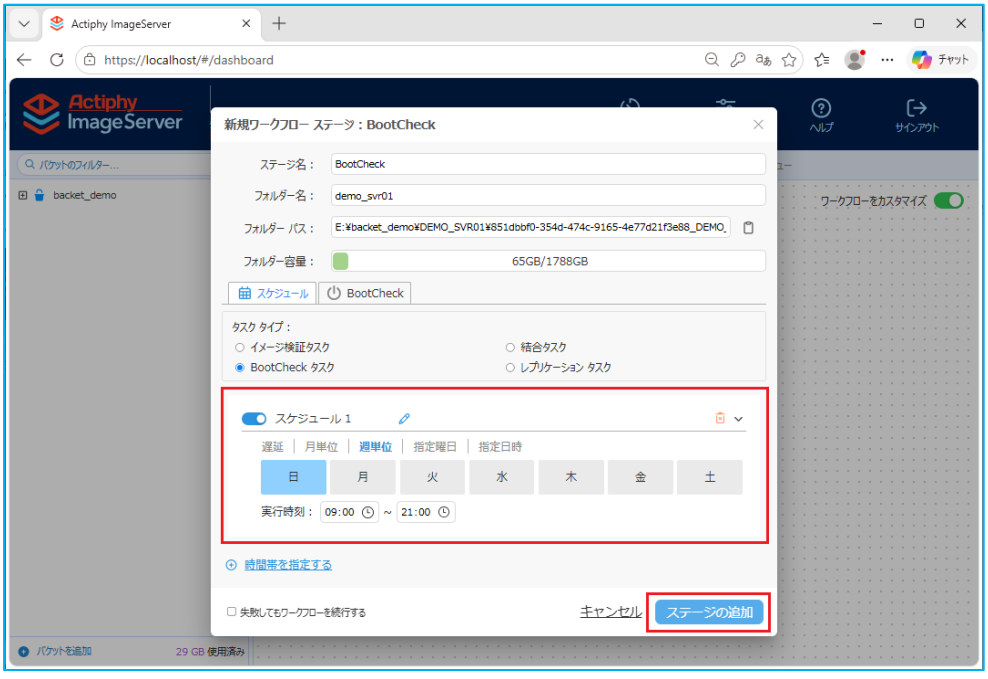
［スケジュール］タブを選択し、［時間帯を設定する］をクリックします。



6. BootCheck タスクの実行時間の設定

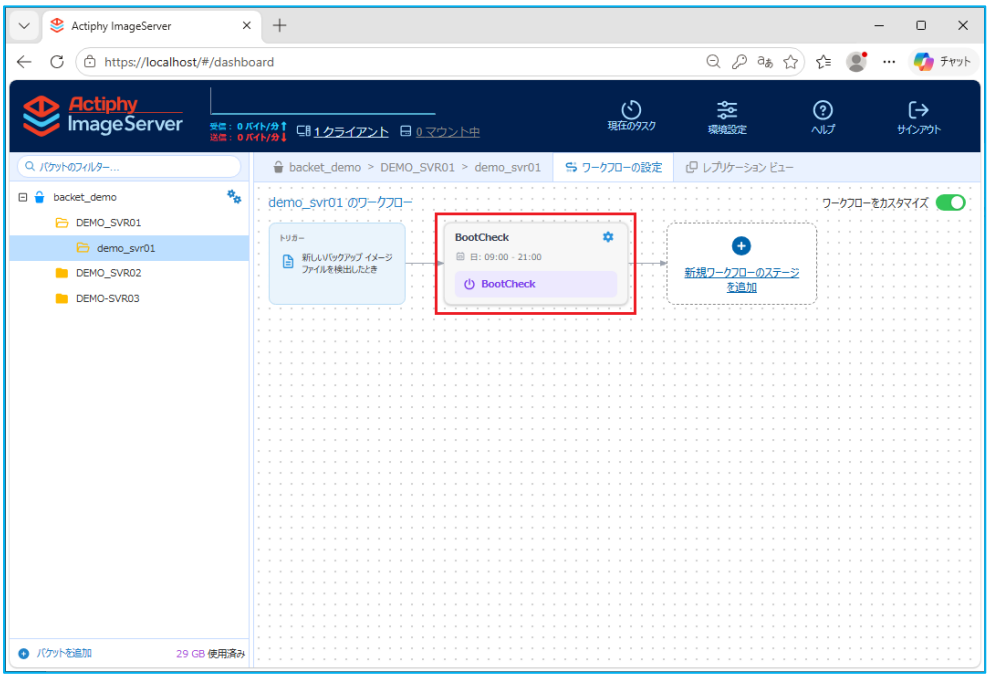
本手順では、［週単位］を選択し、日曜日の 9:00～21:00 の時間帯に処理が実行されるように設定します。

設定が完了したら、［ステージの追加］をクリックし、BootCheck タスクをワークフローに追加します。



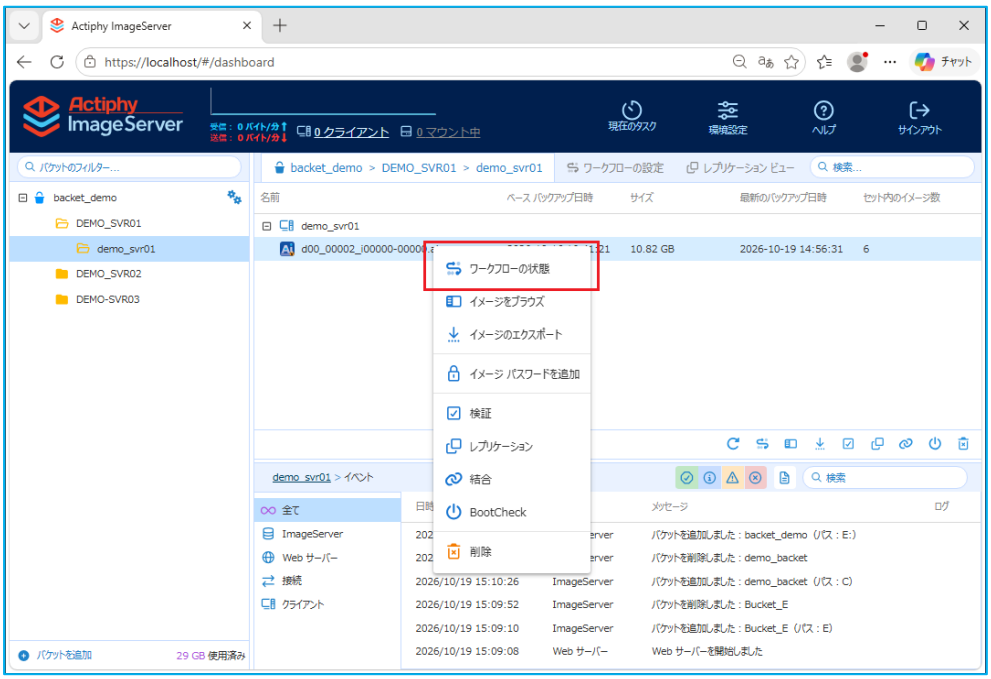
7. ワークフローへの追加確認

設定した BootCheck タスクがワークフローに追加されたことを確認します。以降は、設定したスケジュールに従って、BootCheck タスク（起動確認）が自動的に実行されます。



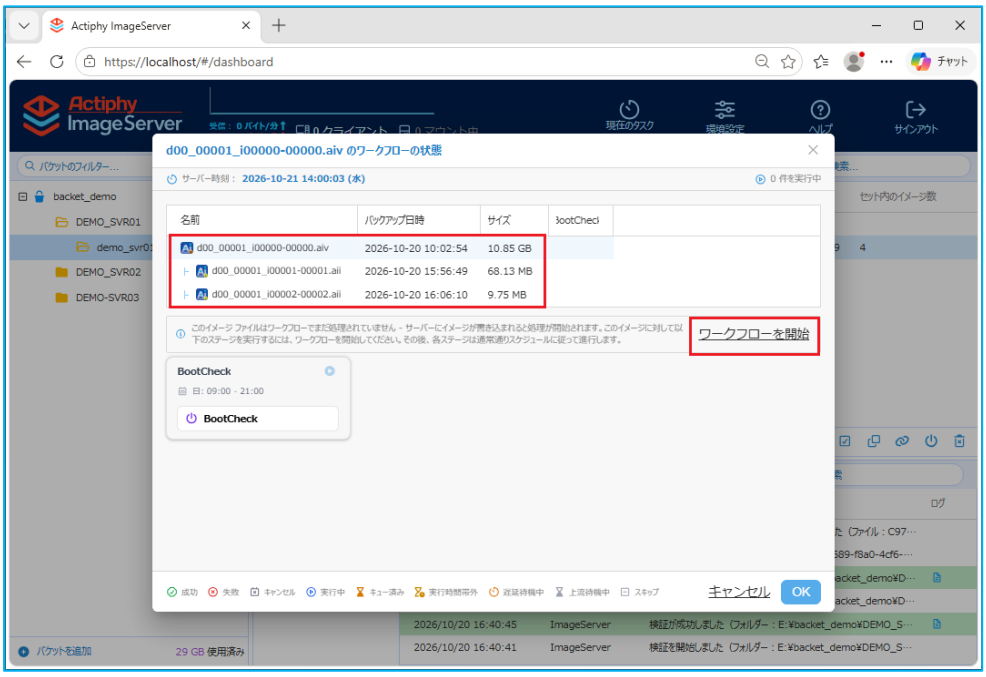
8. ワークフロー設定前に作成されたイメージファイルの処理

既定の状態では、ワークフローを設定しても、設定前に作成された既存のイメージファイルに対してワークフローは開始されません。既存のイメージファイルに対して BootCheck タスクを実行する場合は、［バケットビュー］タブから対象のイメージセットを右クリックして、［ワークフローの状態］を選択します



9. ワークフローの開始

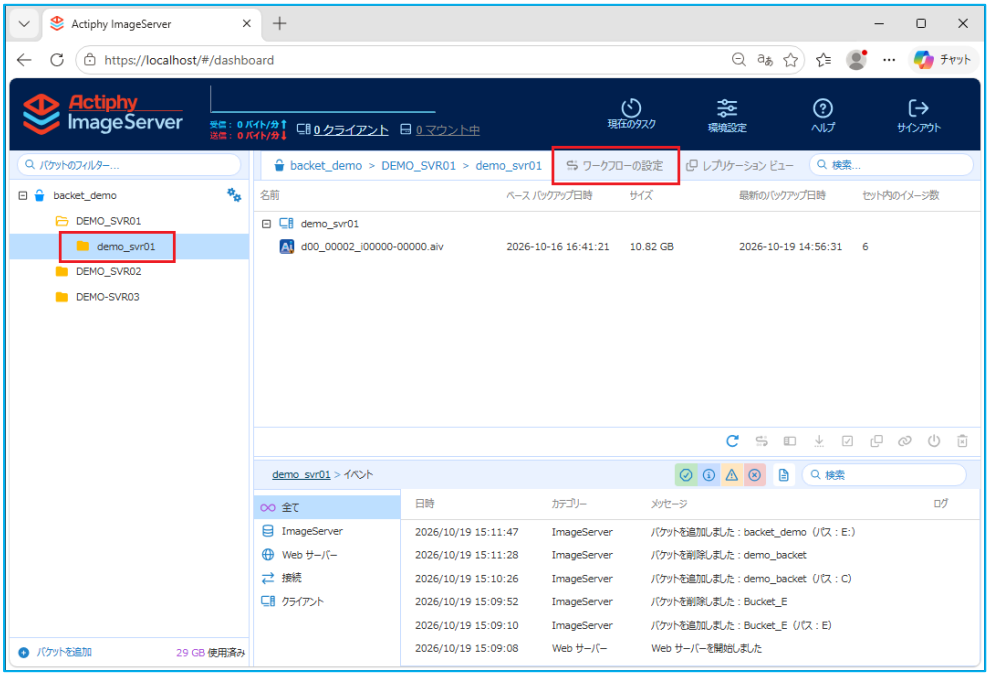
   未処理のイメージファイルを選択し、［ワークフローを開始］をクリックすると、BootCheck タスクが実行されます。



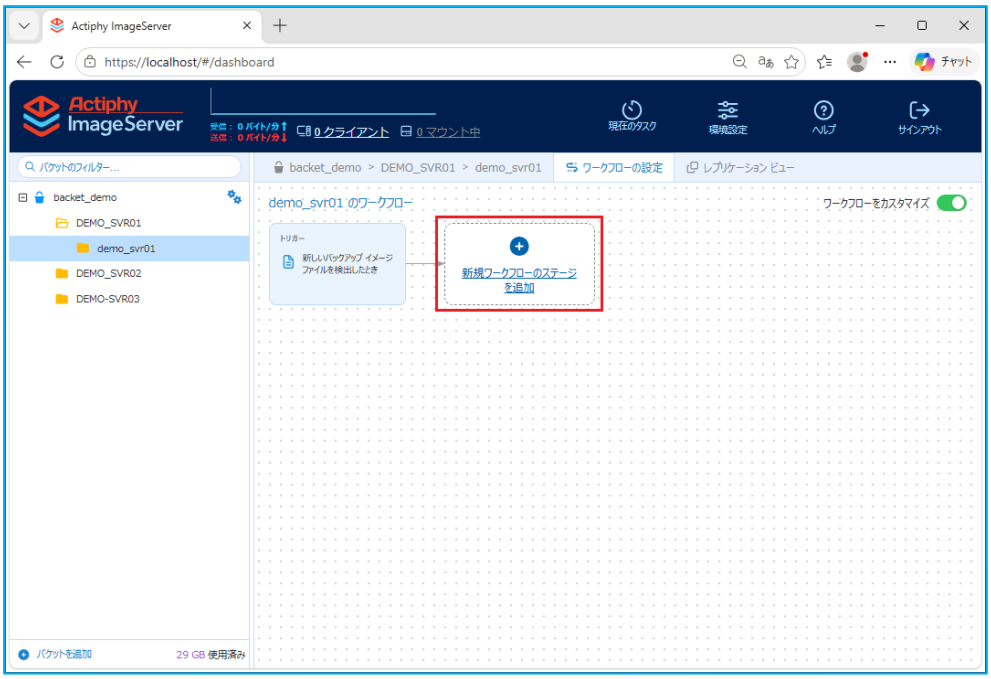
6-4. レプリケーション タスクの作成

レプリケーション タスクを作成し、イメージファイルを指定した保存先に複製します。設定したスケジュールに従って、レプリケーション タスクが自動的に実行されます。

1. 処理対象コンピューターのバックアップ保存先フォルダーの選択
   本手順では、［バケットツリー］から、処理対象コンピューターのフォルダー配下にある、バックアップタスクごとのサブフォルダーを選択し、［ワークフローの設定］タブをクリックします。選択したフォルダー内のイメージファイルが処理対象となります。

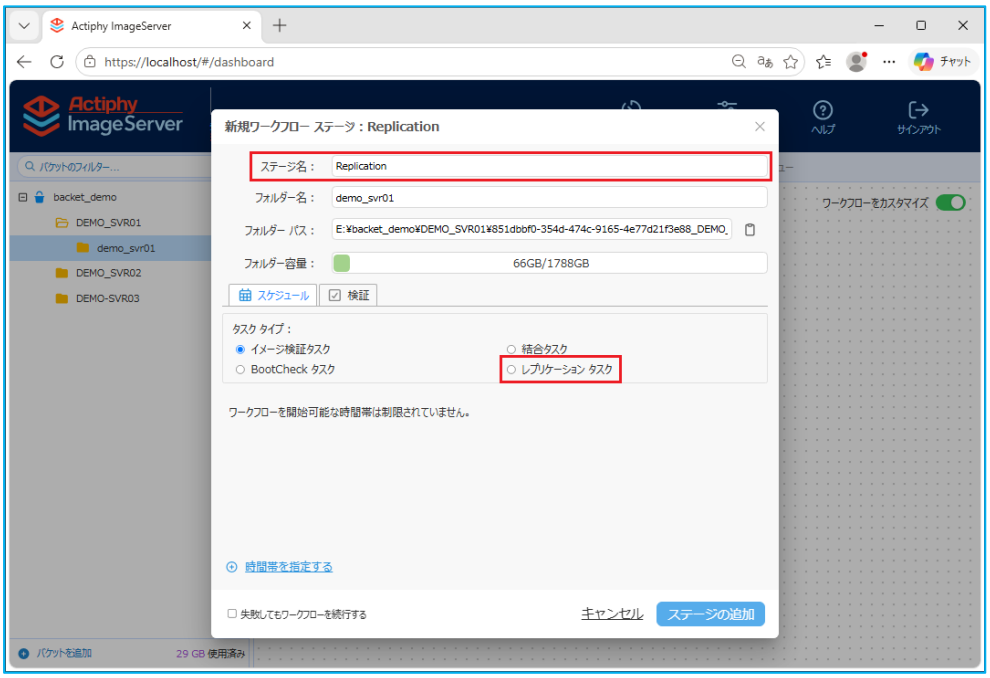


2. ステージの追加
   ［新規ワークフローのステージを追加］をクリックします。



3. ステージ名の設定

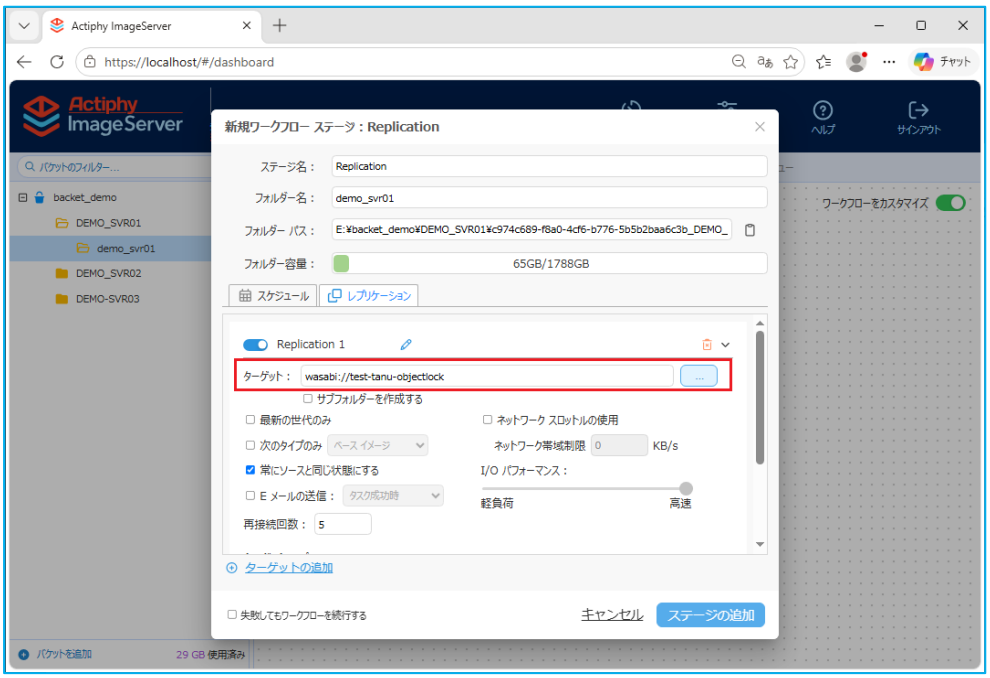
［ステージ名：］に任意の名前を入力します。本手順では、［Replication］と入力します。［タスク タイプ：］から［レプリケーション タスク］にチェックを入れます。



4. レプリケーション先の設定

［ターゲット：］のテキストボックス右側にある参照ボタン［…］をクリックし、レプリケーション先を選択します。ローカルストレージやネットワーク共有のほか、各種クラウドストレージを利用できます。

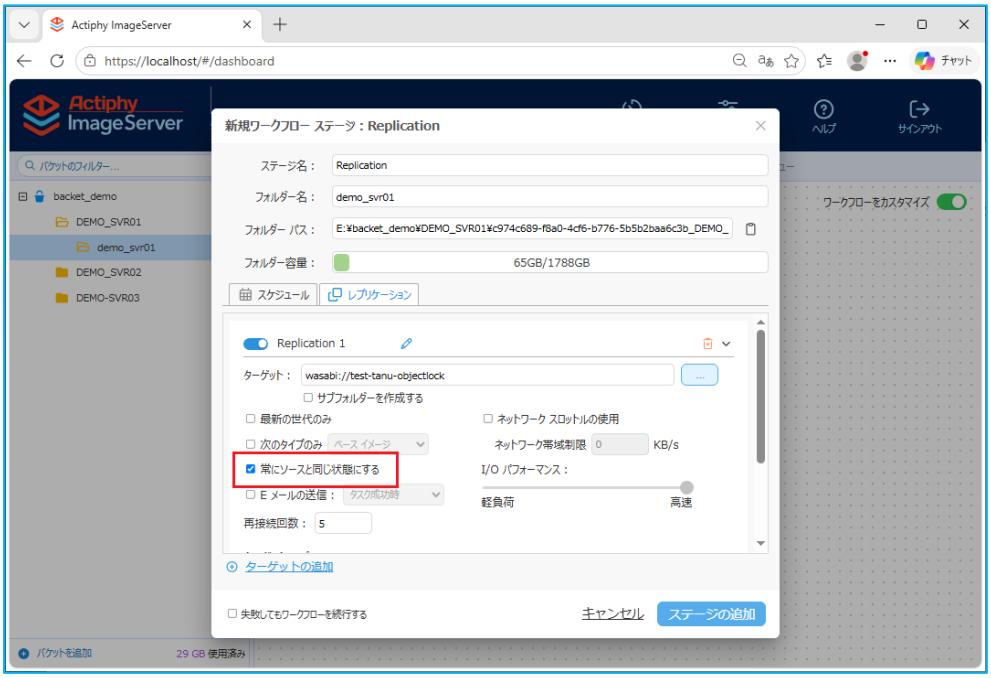
本手順では、クラウドストレージの［Wasabi］を選択します。



5. 実行方法の設定

レプリケーションの方式を選択します。

本手順では、［常にソースと同じ状態にする］を選択し、レプリケーション元とレプリケーション先の状態を同期します。



各実行方式の概要は、以下のとおりです。

(1) 最新の世代のみ

最新世代のイメージファイルをレプリケーションします。

※ レプリケーション元に新しい世代が作成されても、レプリケーション先の古い世代のイメージファイルは自動的に削除されません。不要なファイルの削除方法については、「8-3. レプリケーションビュー」の項を参照してください。

(2) 次のタイプのみ

指定したタイプのイメージファイルをレプリケーションします。対象として、ベース（フル）バックアップまたは増分バックアップを指定します。

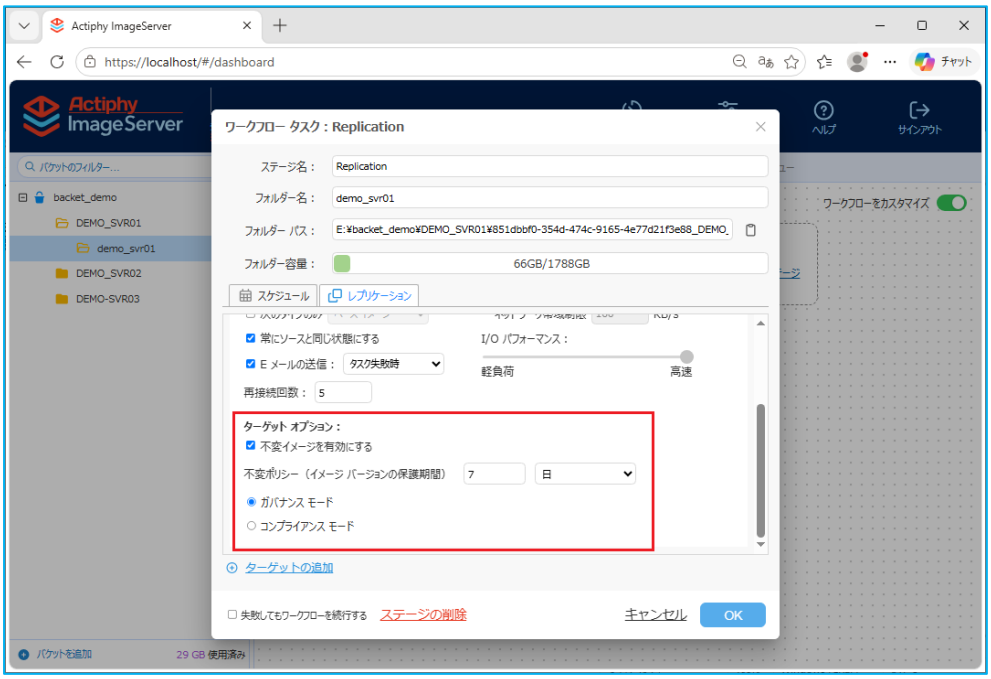
※ レプリケーション元に新しい世代が作成されても、レプリケーション先の古い世代のイメージファイルは自動的に削除されません。不要なファイルの削除方法については、「8-3. レプリケーションビュー」の項を参照してください。

(3) 常にソースと同じ状態にする

レプリケーション元とレプリケーション先の状態を同期し、レプリケーション先をレプリケーション元と同じ状態に保ちます。

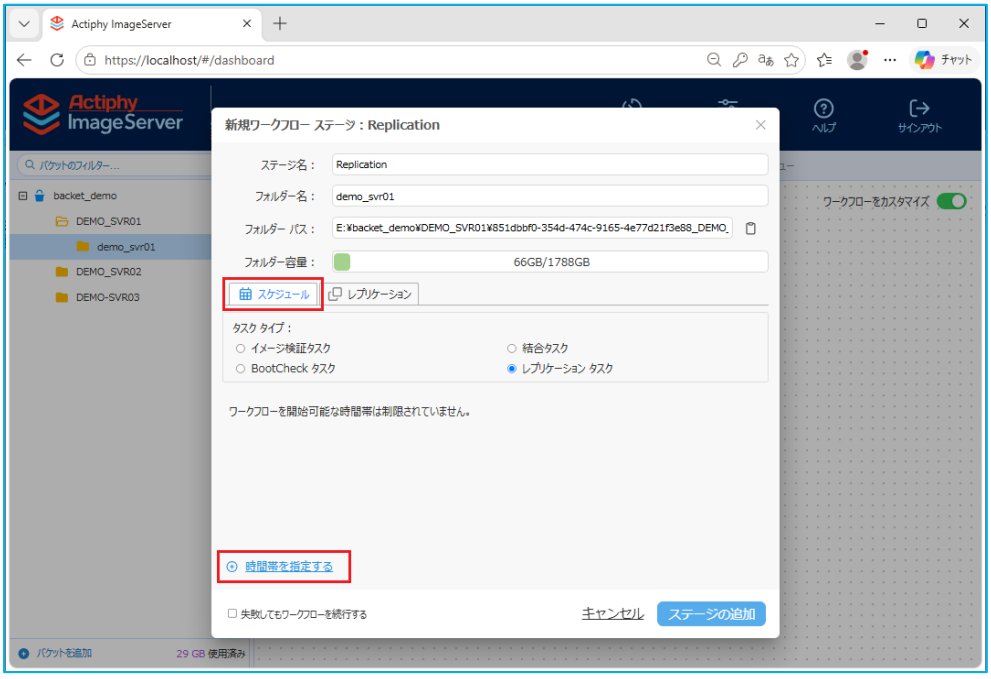
6. オブジェクトロックの設定

   オブジェクトロックが有効な Wasabi バケットを選択した場合は、[ターゲット オプション：]が表示されます。オブジェクトロックの保持期間とモードを設定します。



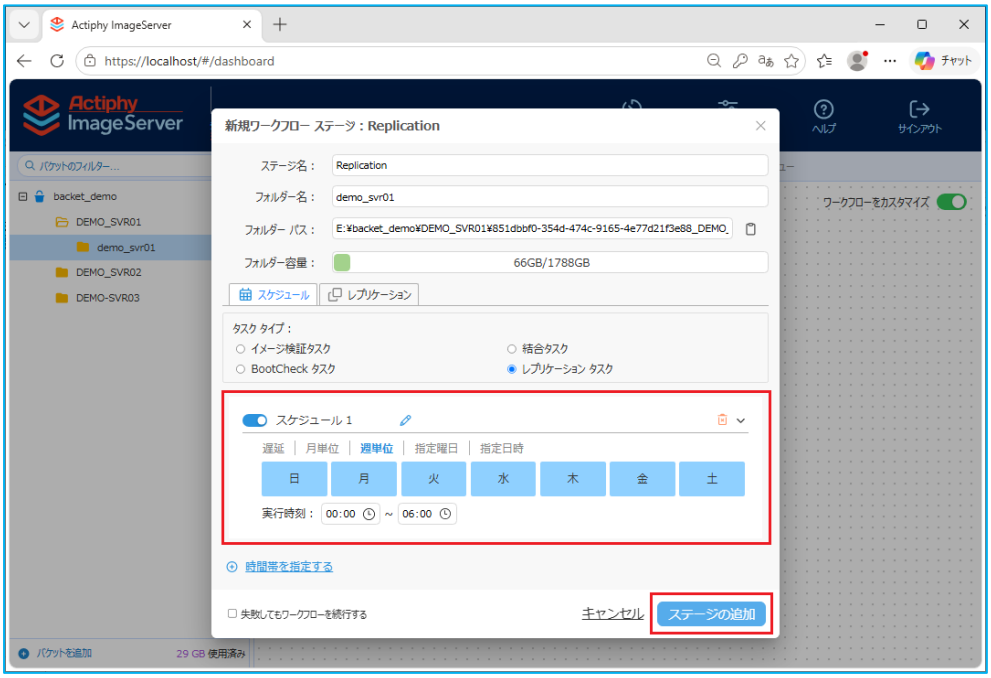
7. スケジュールの設定

   ［スケジュール］タブを選択し、[時間帯を設定する]をクリックします。



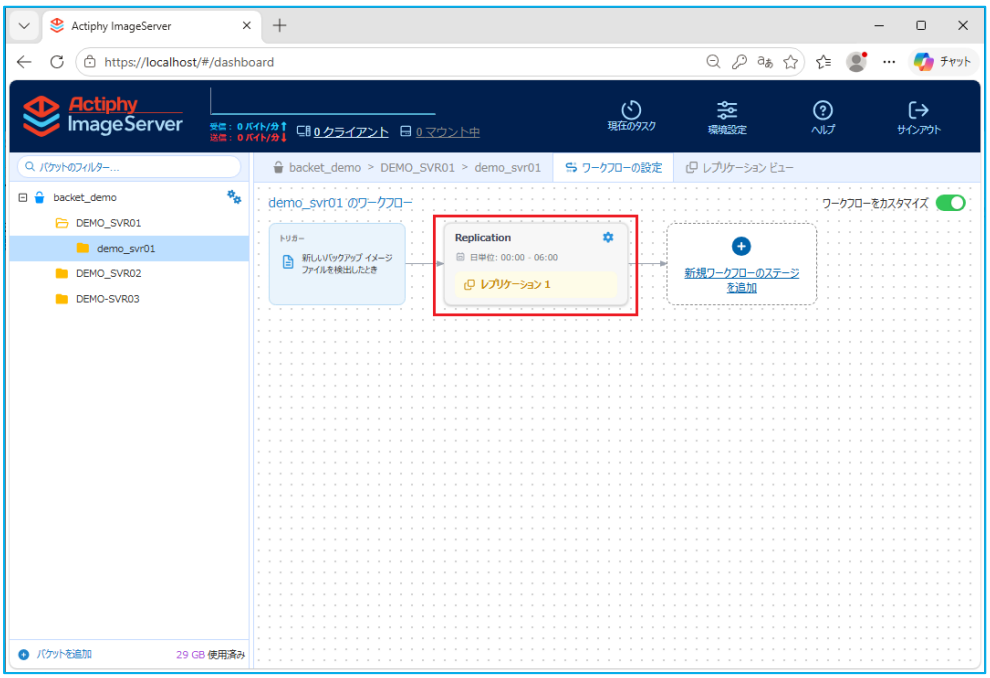
8. レプリケーション タスクの実行時間の設定

本手順では、［週単位］を選択し、毎日 0:00～6:00 の時間帯にレプリケーションが実行されるように設定します。設定が完了したら、［ステージの追加］をクリックし、レプリケーション タスクをワークフローに追加します。



9. ワークフローへの追加確認

設定したレプリケーション タスクがワークフローに追加されたことを確認します。以降は、設定したスケジュールに従って、レプリケーション タスクが自動的に実行されます。



7. 環境設定

Actiphy ImageServer のキャッシュデバイス、E メール通知、ハイパーバイザーの設定手順について説明します。

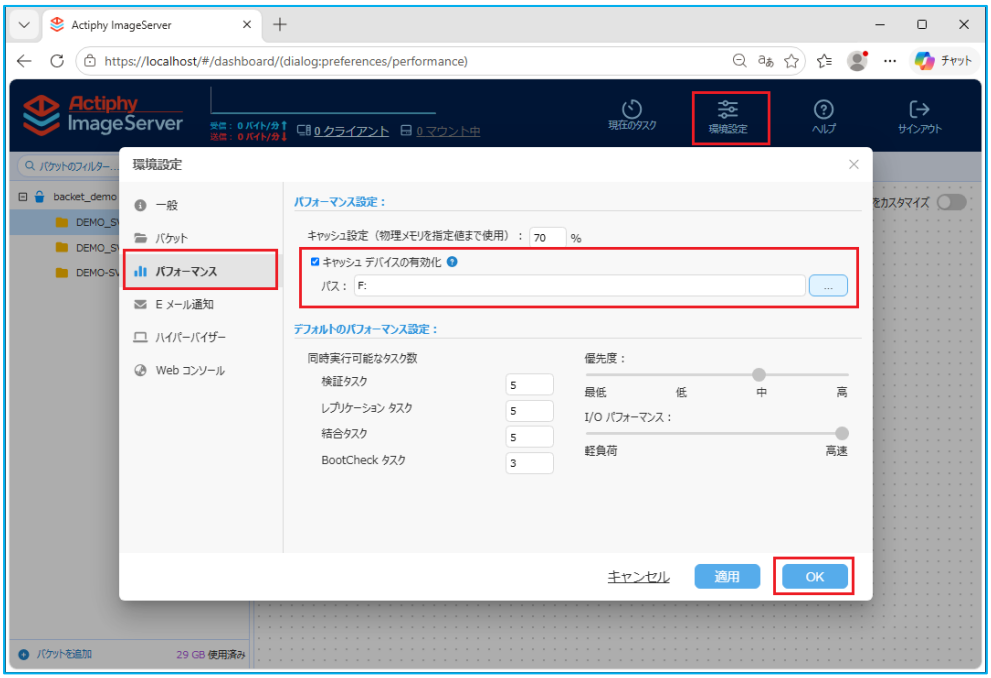
7-1. キャッシュ デバイスの設定

Actiphy ImageServer では、バケットを配置したストレージよりも高速なストレージデバイス（USB SSD など）をキャッシュデバイスとして使用できます。ディスクへの書き込み待ちが発生している環境では、バックアップデータの書き込みをキャッシュすることで、保存先ストレージの書き込み性能による影響を軽減し、バックアップ処理の速度の安定化が期待できます。

1. キャッシュ デバイスの設定

   ［環境設定］から［パフォーマンス］を選択します。［キャッシュ デバイスの有効化］を有効にし、［パス：］の参照ボタン［…］からキャッシュ デバイスを指定します。

   本手順では、「F ドライブ」として接続した USB SSD をキャッシュ デバイスに指定します。設定が完了したら、[OK]をクリックします。

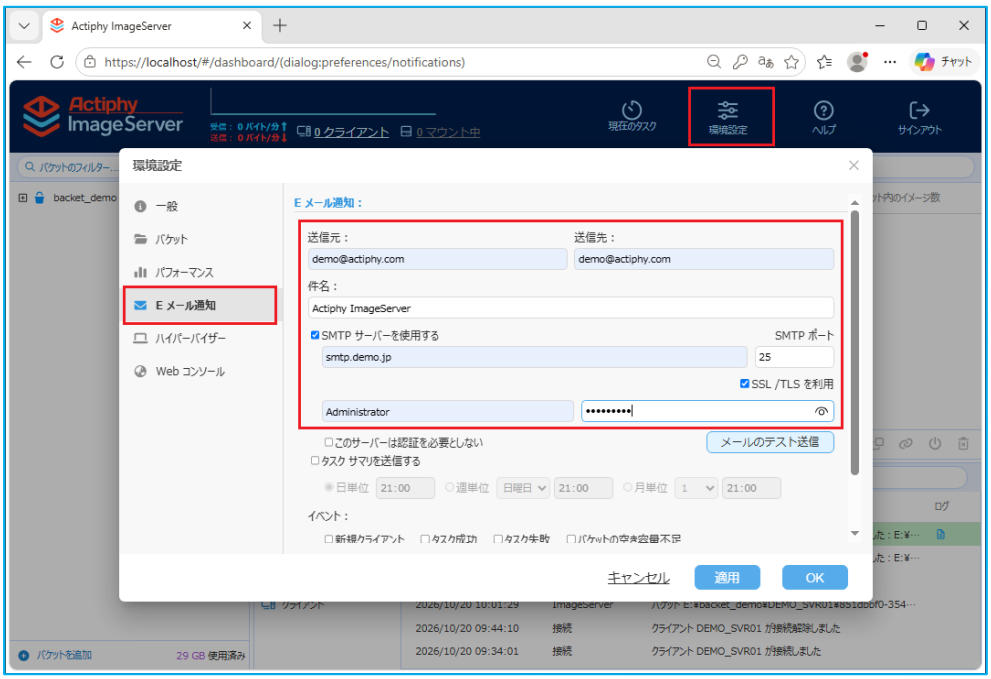


7-2. E メール通知の設定

E メール通知では、イメージ管理タスクの実行結果やディスク容量不足など、あらかじめ設定したイベントに応じて、指定したメールアドレスに通知を自動送信できます。

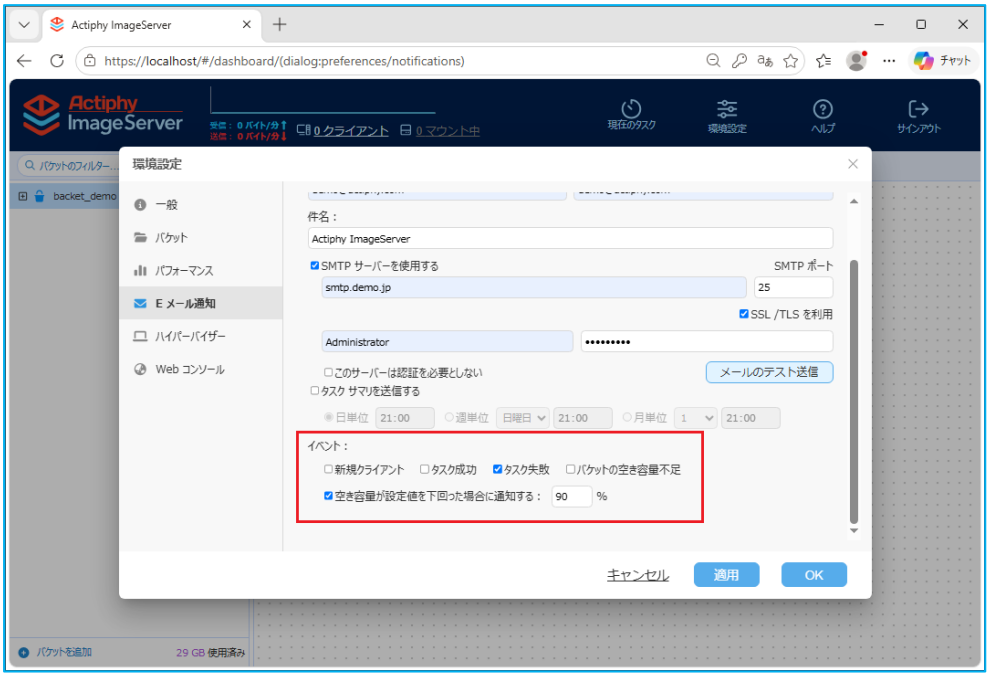
1. E メール通知の設定

   ［環境設定］から［E メール通知設定］を選択します。［送信元：］と［送信先：］にメールアドレスを入力します。任意の SMTP サーバーを使用する場合は、必要な接続設定を行います。



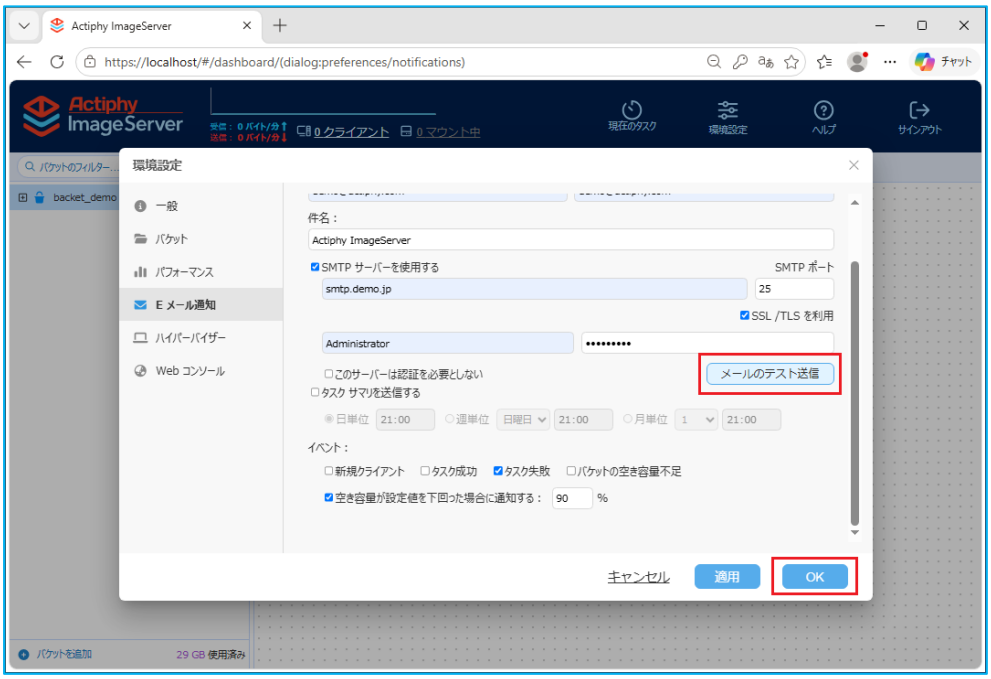
2. イベントの設定

   タスクの失敗や成功など、通知対象とするイベントを選択します。選択したイベントが発生すると、メール通知が送信されます。通知対象には、イメージファイルの作成やワークフローの処理に関するイベントが含まれます。



3. メールのテスト送信

すべての設定が完了したら、［メールのテスト送信］を実行し、メールが正常に送信されることを確認します。テストメールの受信を確認したら、［OK］をクリックします。

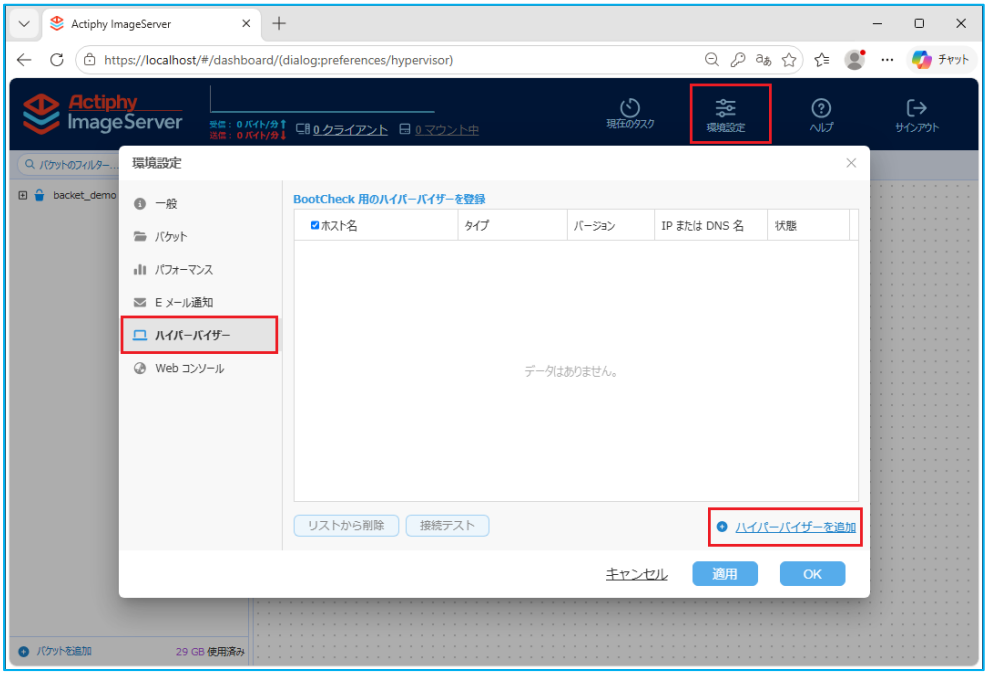


7-3. ハイパーバイザーの登録

BootCheck で使用するハイパーバイザー（Hyper-V ホスト）を登録します。

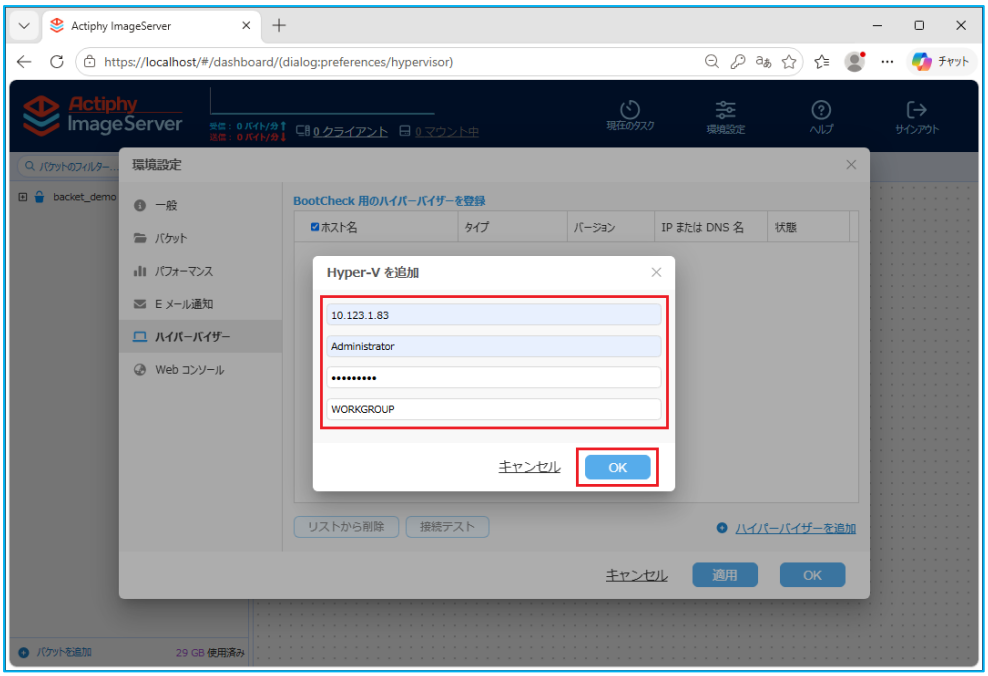
1. ハイパーバイザーの追加

   ［環境設定］→［ハイパーバイザー］を選択し、［ハイパーバイザーを追加］をクリックします。



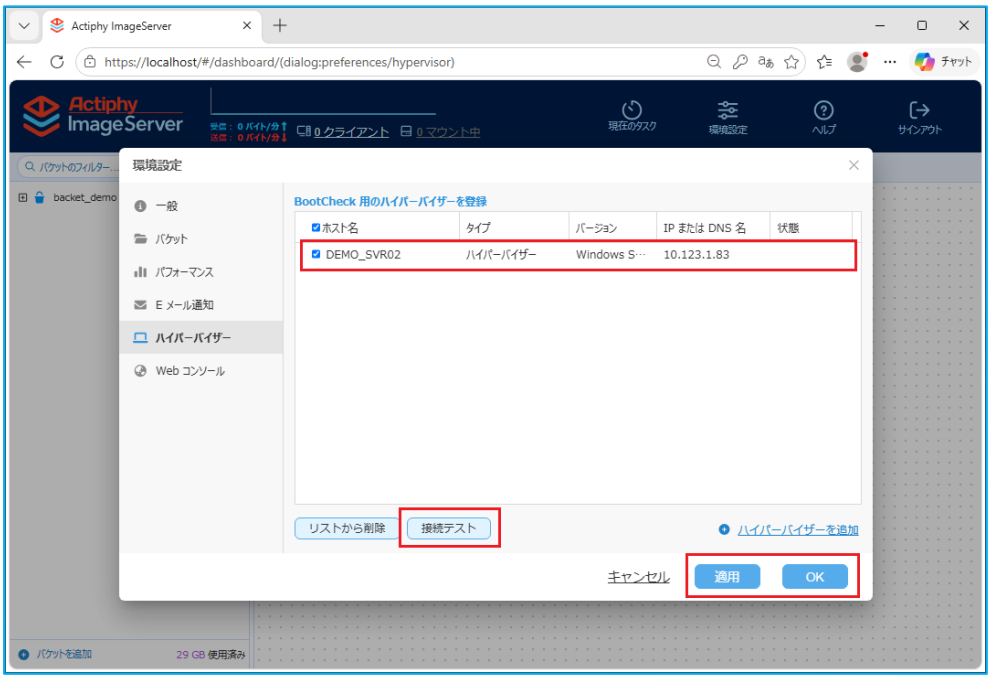
2. ハイパーバイザー ホストの指定

   ホスト情報と認証情報を入力し、［OK］をクリックします。



3. 接続テスト

登録したハイパーバイザーを選択し、[接続テスト] をクリックして、正常に接続できることを確認します。
接続を確認したら、［適用］→［OK］をクリックします。

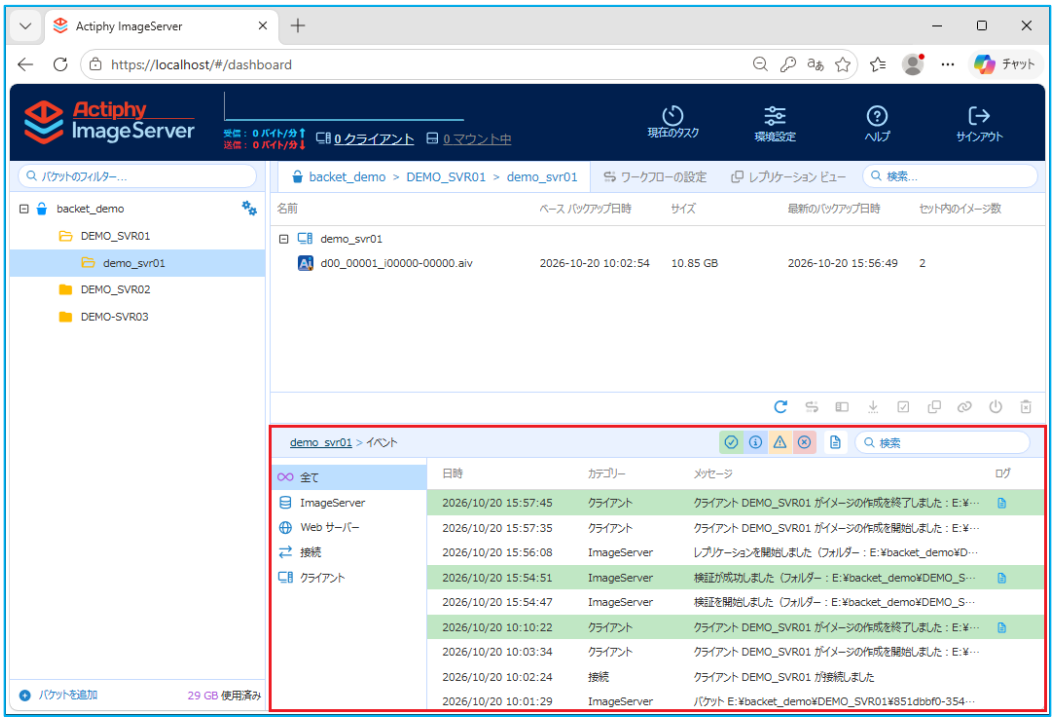


8. 運用管理

Actiphy ImageServer のイベント履歴やワークフローの実行状況の確認、タスクの管理、イメージファイルのコピー・削除、エクスポート、マウントなど、日常の運用管理に必要な操作について説明します。

8-1. イベントビューアー

Actiphy ImageServer や処理対象コンピューターなどのイベント履歴を表示し、各種処理の状況を確認できます。カテゴリー別にフィルターを適用して、必要なイベントを絞り込むこともできます。タスクログがあるアイテムは、［ログ］列からログの内容を確認できます。

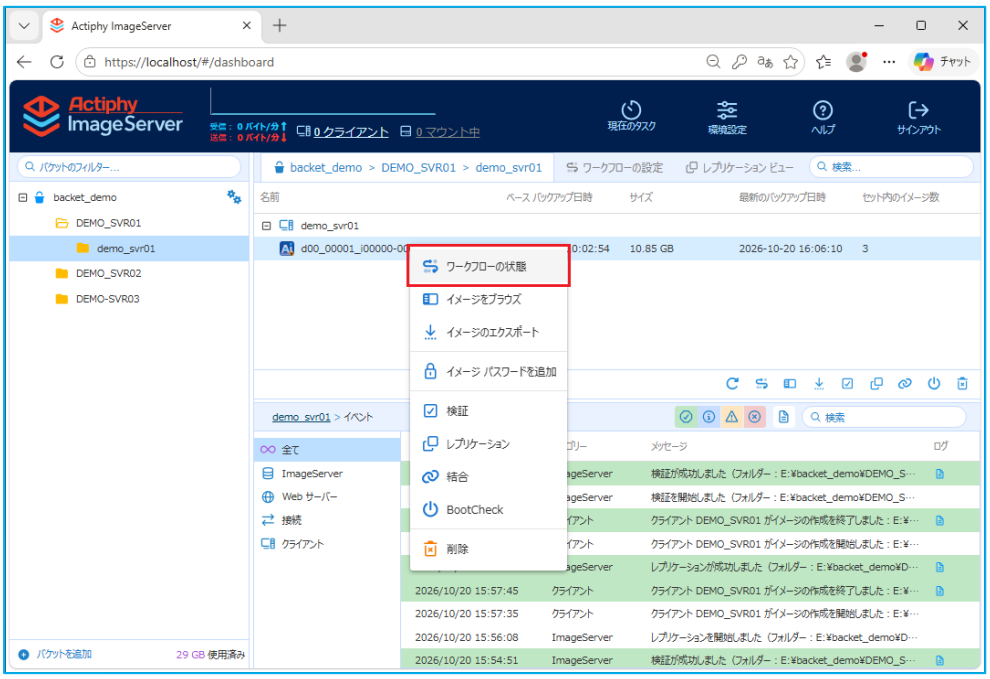


8-2. ワークフロータスクの管理

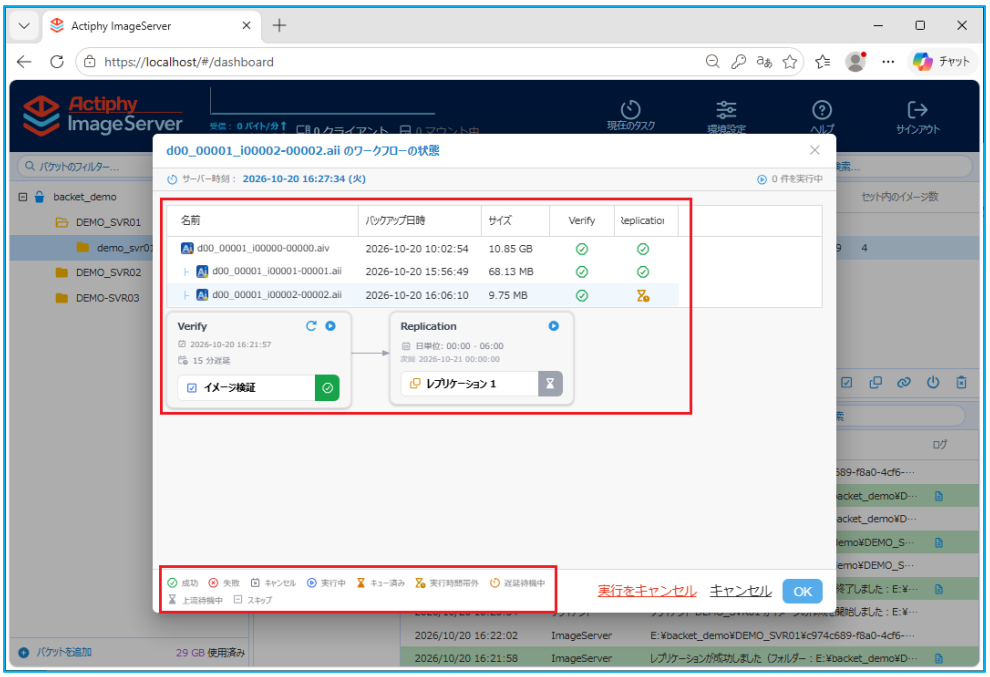
ワークフロータスクの実行状態の確認、ワークフローの編集、ステージの追加・削除などの管理方法について説明します。

1. ワークフロータスクの状態確認

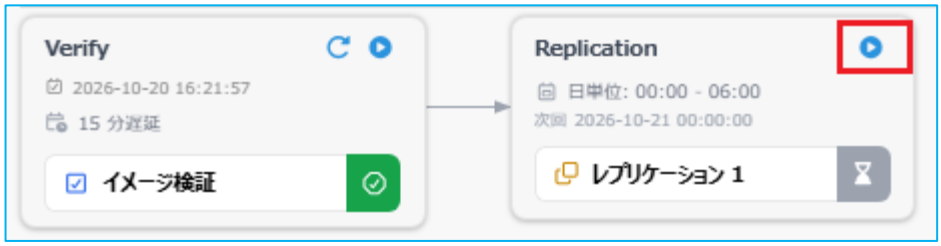
   ［バケットビュー］タブから対象のイメージセットを右クリックし、［ワークフローの状態］を選択すると、各ステージの実行状態を確認できます。



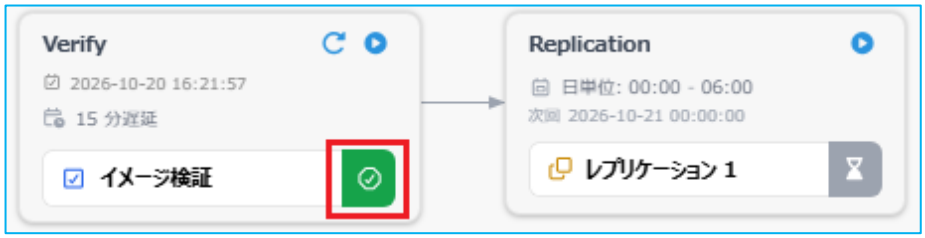
2. 各ステージの実行状態を確認できます。



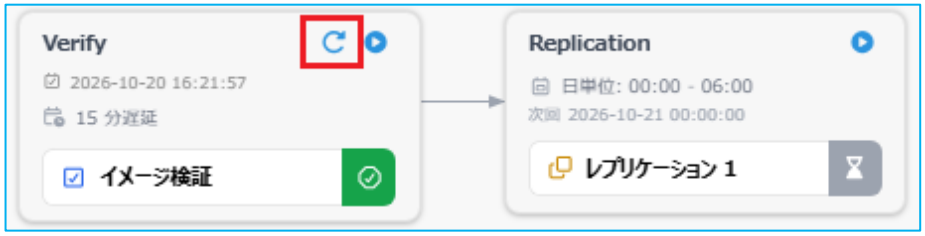
(1) 各ステージの実行マークをクリックすると、設定されたスケジュールにかかわらず、上流ステージの処理完了後に、対象ステージの処理を開始できます。



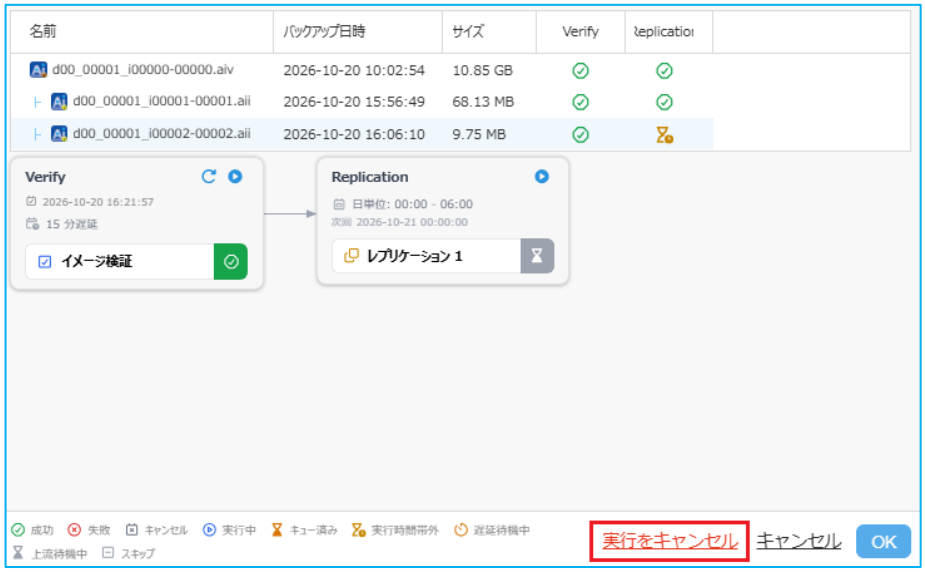
(2) 各ステージの［タスクタイプ］に表示されている状態アイコンをクリックすると、対象ステージの処理を即時実行できます。



(3) 処理済みのワークフローでリフレッシュマークをクリックすると、各ステージの処理結果がリセットされ、ワークフローが実行待ちの状態に戻ります。

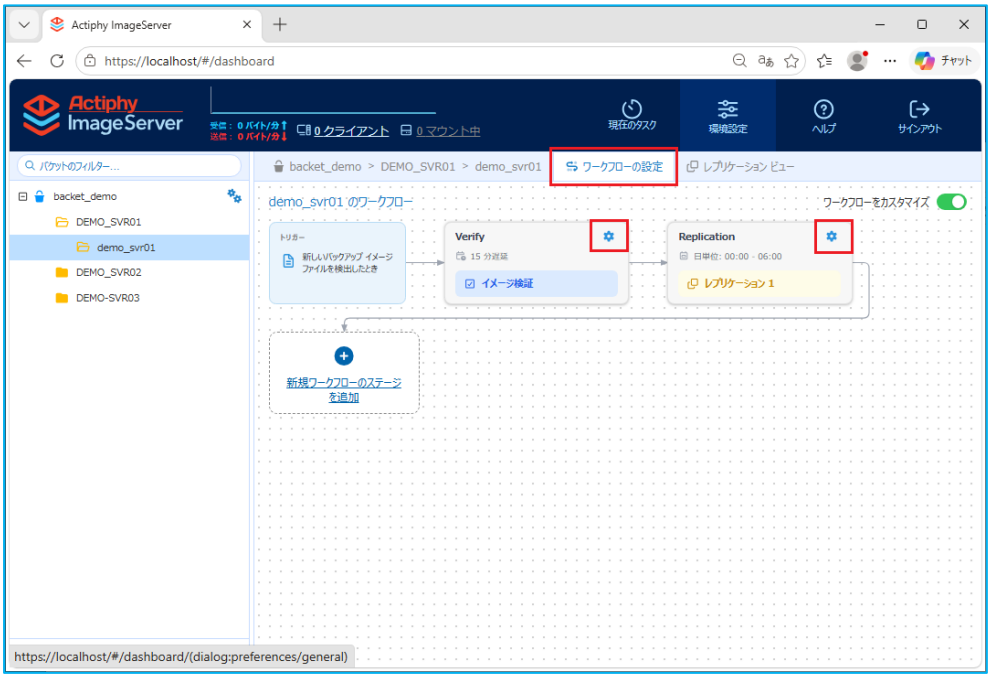


(4) タスクの実行中に［実行をキャンセル］をクリックすると、実行中の処理をキャンセルできます。



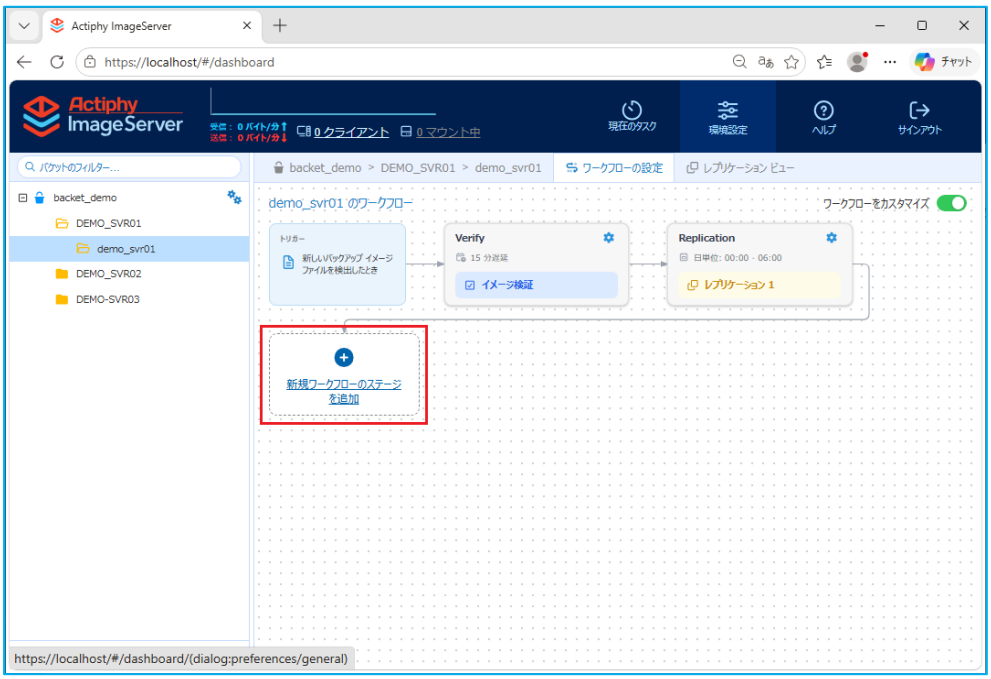
3. ステージの編集・削除

［ワークフローの設定］タブから対象ステージの歯車アイコンをクリックすると、ステージの設定を編集したり、ステージを削除したりできます。変更後のワークフローは、変更後に新規作成されたイメージファイルに適用されます。



4. ステージの追加と順序の変更

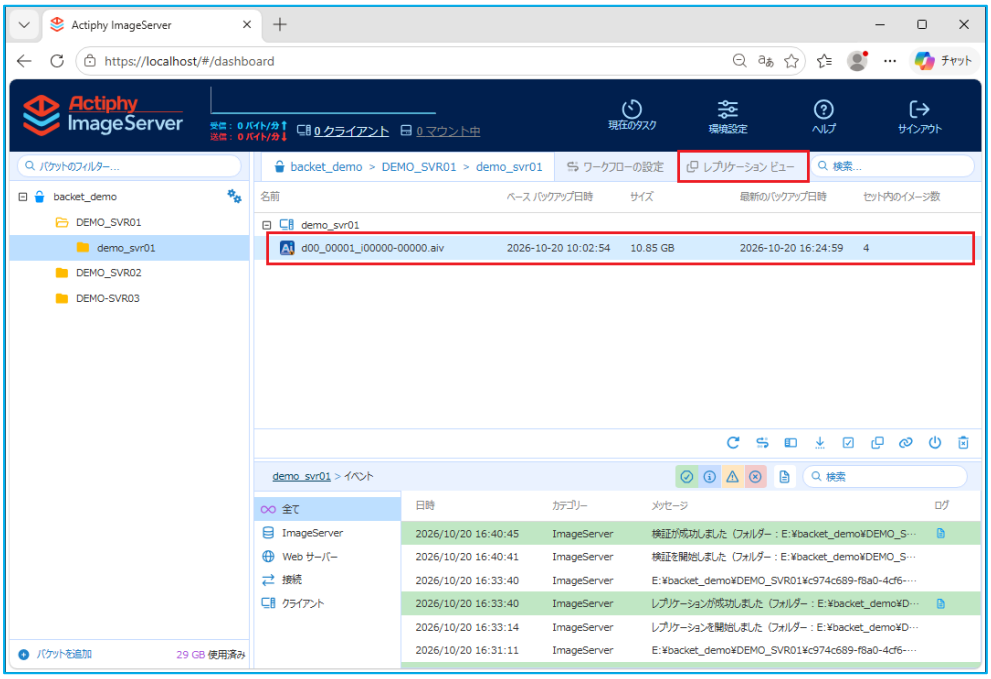
［ワークフローの設定］タブからステージを追加できます。各ステージは設定された順序に従って処理されます。ステージの順序は、ドラッグ＆ドロップで変更できます。



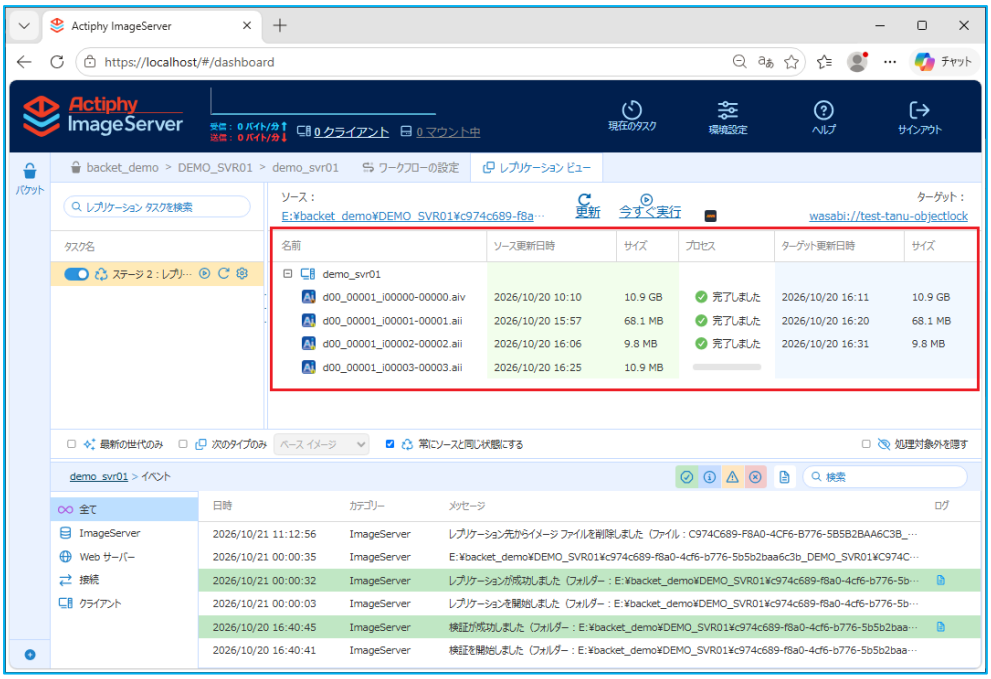
8-3. レプリケーションビュー

レプリケーションビューでは、レプリケーション元とレプリケーション先のバックアップイメージの確認・比較に加え、タスクの即時実行や編集、バックアップイメージのコピー・削除などを行えます。

1. レプリケーション元とレプリケーション先のイメージファイルの確認
   対象のイメージセットを選択し、［レプリケーションビュー］タブをクリックします。

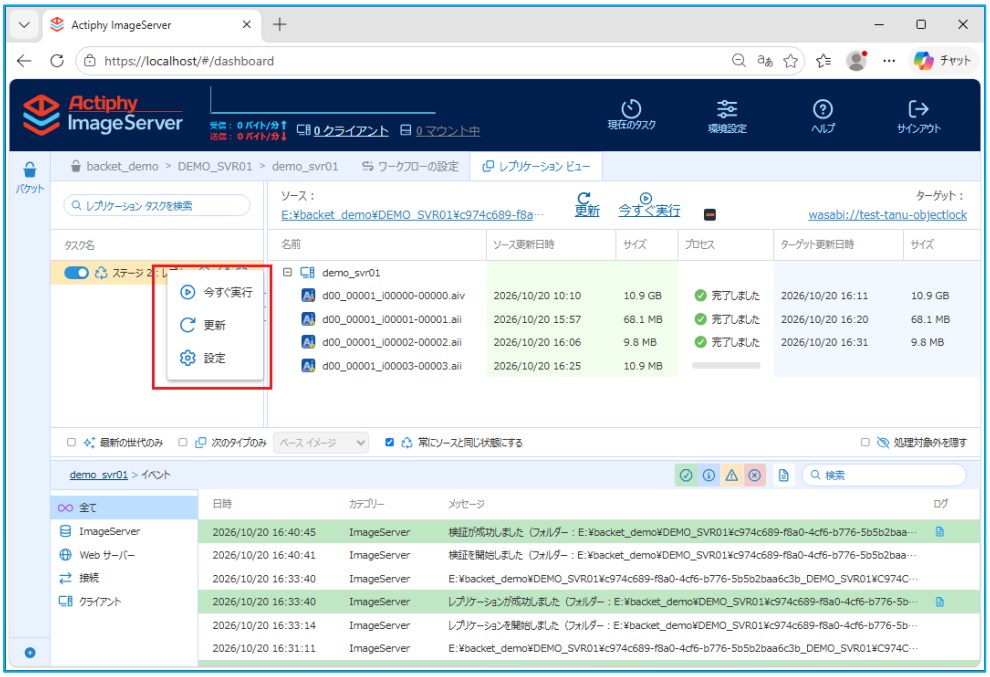


2. イメージファイルの確認
   レプリケーション元とレプリケーション先のイメージファイルの状態を確認できます。



3. タスクの即時実行・編集

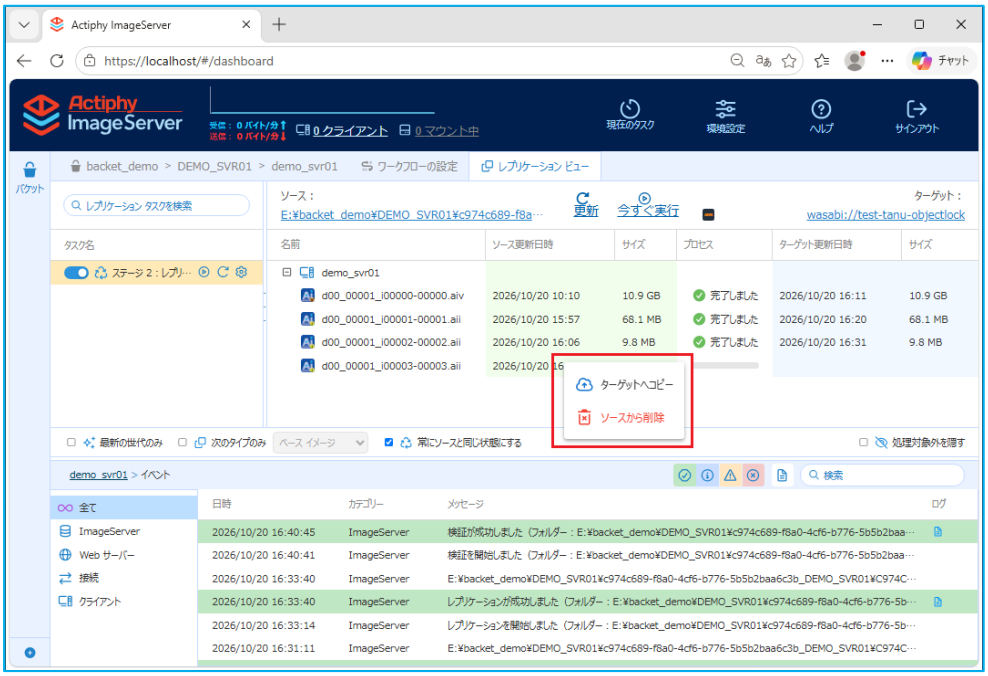
［タスク］を右クリックすると、タスクの即時実行、情報の更新、タスクの編集を行えます。



4. イメージファイルのコピー・削除

レプリケーション元（ソース）とレプリケーション先（ターゲット）の間で、バックアップイメージを相互にコピーしたり、削除したりできます。

アイテムリストに表示された対象のバックアップ情報（更新日時やサイズ）を右クリックし、メニューから［ターゲットへコピー］、［ソースへコピー］、［ソースから削除］、または［ターゲットから削除］を選択します。

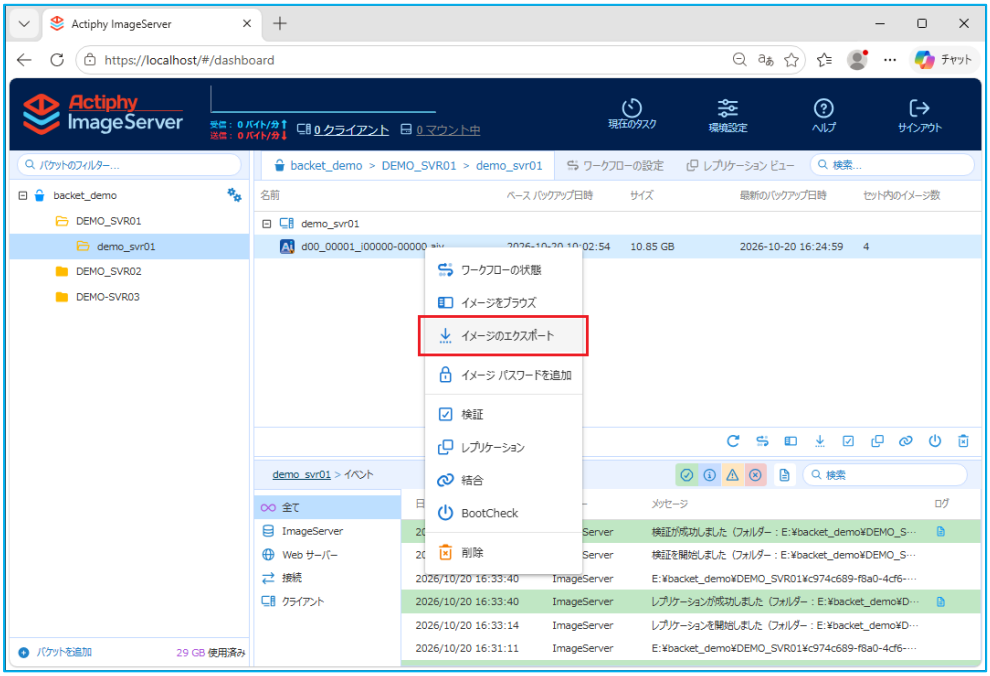


8-4. イメージファイルのエクスポート

重複排除されたイメージファイルは、Windows エクスプローラーなどで単純にコピーしても、コピー先で単体のイメージファイルとして使用できません。イメージファイルをコピーして使用する場合は、エクスポート機能を使用します。

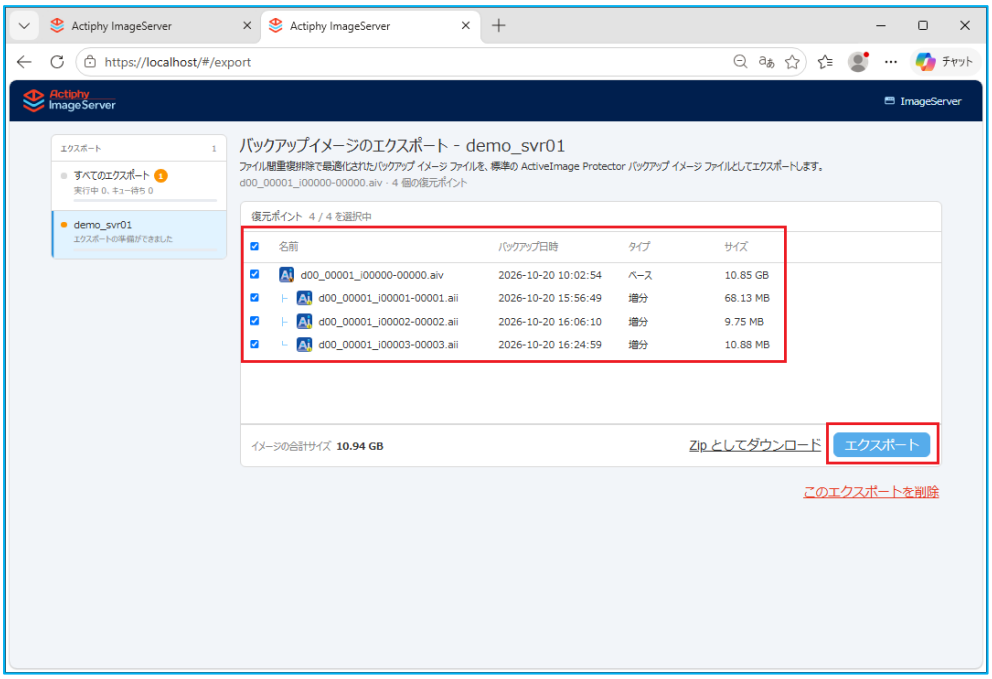
1. 対象のイメージセットの選択

   ［バケットビュー］タブから対象のイメージセットを選択し、右クリックメニューから［イメージのエクスポート］をクリックします。



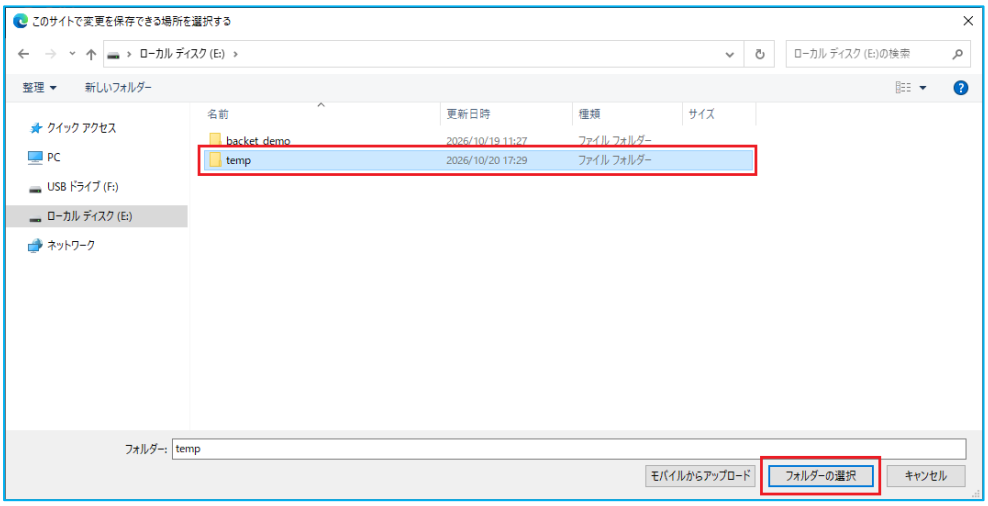
2. エクスポートするイメージファイルの選択

   エクスポートするイメージファイルを選択し、［エクスポート］をクリックします。



3. コピー先の指定

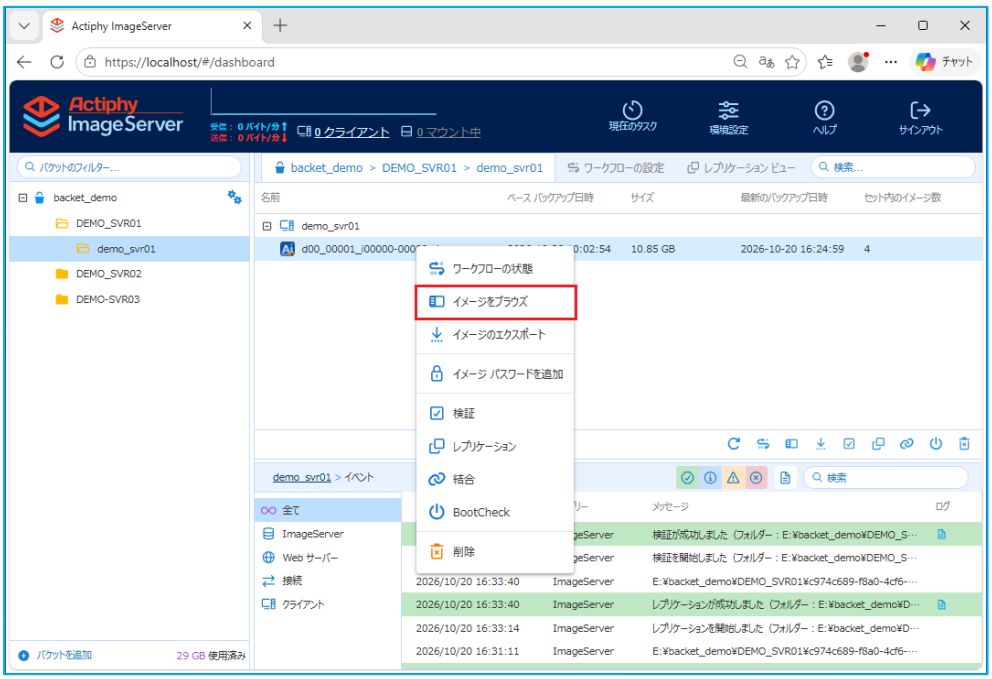
   エクスポート先のフォルダーを指定し、［フォルダーの選択］をクリックすると、エクスポートが開始されます。



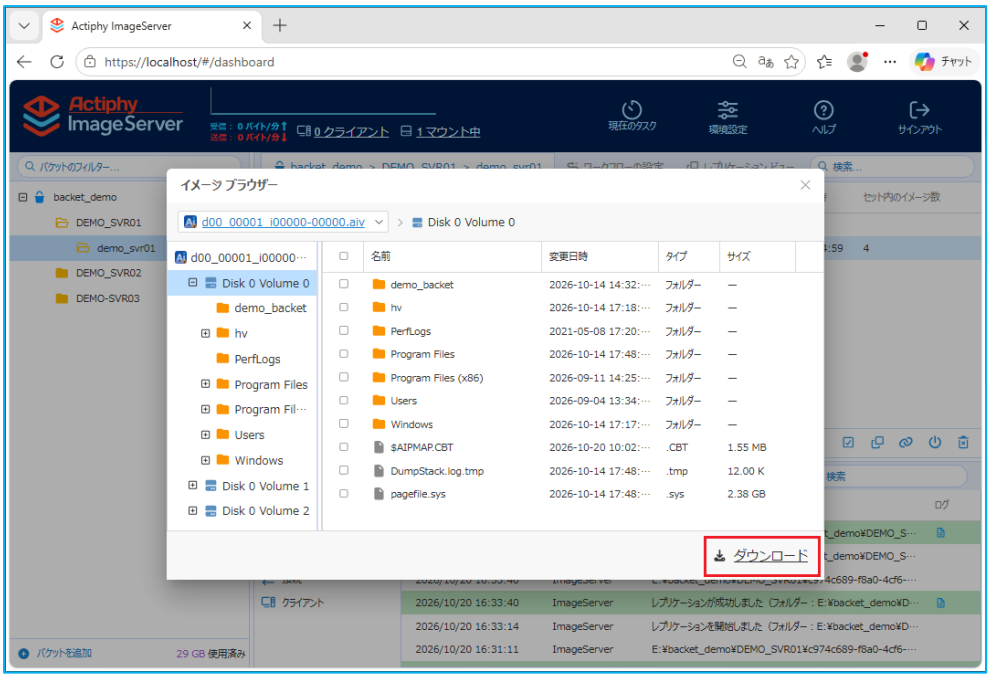
8-5. イメージファイルの展開

重複排除されたイメージファイルを展開し、内部のファイルやフォルダーを選択して、個別に取り出すことができます。

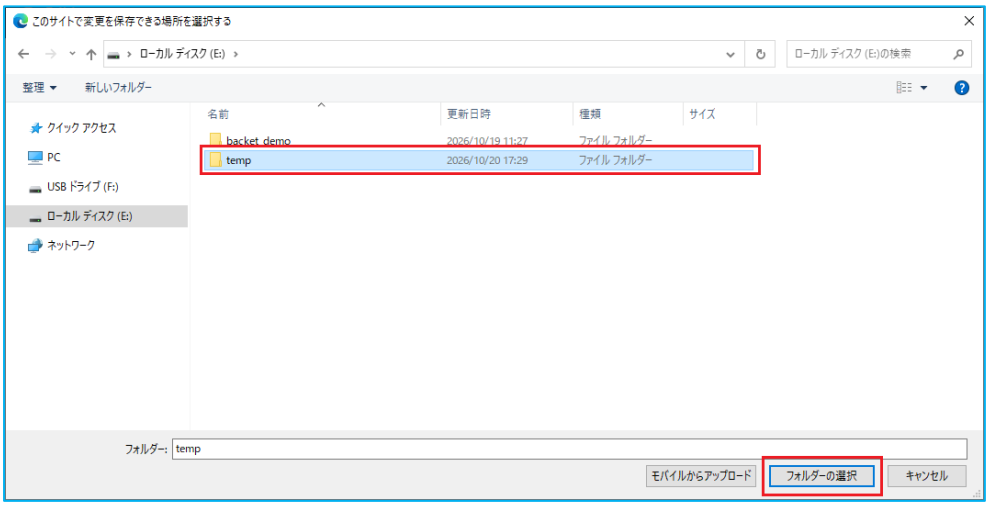
1. 対象のイメージセットの選択
   ［バケットビュー］タブから対象のイメージセットを選択し、右クリックメニューから［イメージをブラウズ］をクリックします。



2. ダウンロードするファイルやフォルダーの選択
   イメージセットがマウントされたら、必要なファイルやフォルダーを選択し、[ダウンロード]をクリックします。



3. ダウンロード先の指定
   ダウンロード先のフォルダーを指定し、［フォルダーの選択］をクリックすると、ダウンロードが開始されます。



9. 参考情報

アクティファイの Web サイト

製品情報の他、各種資料やサポート情報、アップデートなど、総合的にご案内しています。

https://www.actiphy.com

ActiveImage Protector の FAQ

サポート情報のデータベースです。

https://actiphyhelp.zendesk.com/hc/ja/sections/13451048765081

ActiveImage Protector に関するお問い合わせ先：

株式会社 アクティファイ

営業本部

E-mail:sales@actiphy.com

TEL: 03-5256-0877

FAX: 03-5256-0878

© 2026 Actiphy, Inc. 無断複写・転載を禁止します。

本ソフトウェアと付属ドキュメントは株式会社アクティファイに所有権および著作権があります

本ガイド中のその他のブランド名及び製品名は、それぞれ帰属する所有者の商標または登録商標です。